

青少年の社会意識及び活動に関する調査結果

[小学生保護者・中学生保護者・高校生保護者]

○調査対象となっている子どもの学年

	人数（人）	割合（％）
小学校5年生	305	13.1
小学校6年生	291	12.5
中学校1年生	289	12.4
中学校2年生	275	11.8
中学校3年生	290	12.5
高校1年生	281	12.1
高校2年生	291	12.5
高校3年生	293	12.6
無回答	13	0.6
合計	2,328	100.0

複数学年の選択や男女両方の選択、未回答などにより集計ごとに分母が異なるが、回答者数は2,326人

※複数回答2件

○調査の対象となっている子どもの性別

	小 （人）	中 （人）	高 （人）	無回答 （人）	計 （人）	割合 （％）
男	303	418	455	1	1,177	50.6
女	292	435	408	0	1,135	48.8
無回答	1	0	2	12	15	0.6
合計	596	853	865	13	2,327	100.0

※複数回答1件

○調査の対象となっている子どもと回答者との続柄（子どもから見た続柄）

	小 （人）	中 （人）	高 （人）	無回答 （人）	計 （人）	割合 （％）
父	34	65	92	0	191	8.2
母	552	784	764	1	2,101	90.2
祖父	0	0	2	0	2	0.1
祖母	4	3	1	0	8	0.3
その他	5	0	5	0	10	0.4
無回答	1	2	1	12	16	0.7
合計	596	854	865	13	2,328	100.0

※複数回答2件

[記号の意味、集計の考え方]

- * 複数回答の設問は、各選択肢の選択率（全回答者数のうち、該当選択肢を選択した割合）を比較している。
- * 回答数の制限を超えて回答している場合（1つのみの選択で2つ印がついている等）、すべての回答について有効とした。（そのため、回答数が回答者数を超えている場合がある。）
- * 割合は、小数点第2位で四捨五入とした。

I 家庭生活

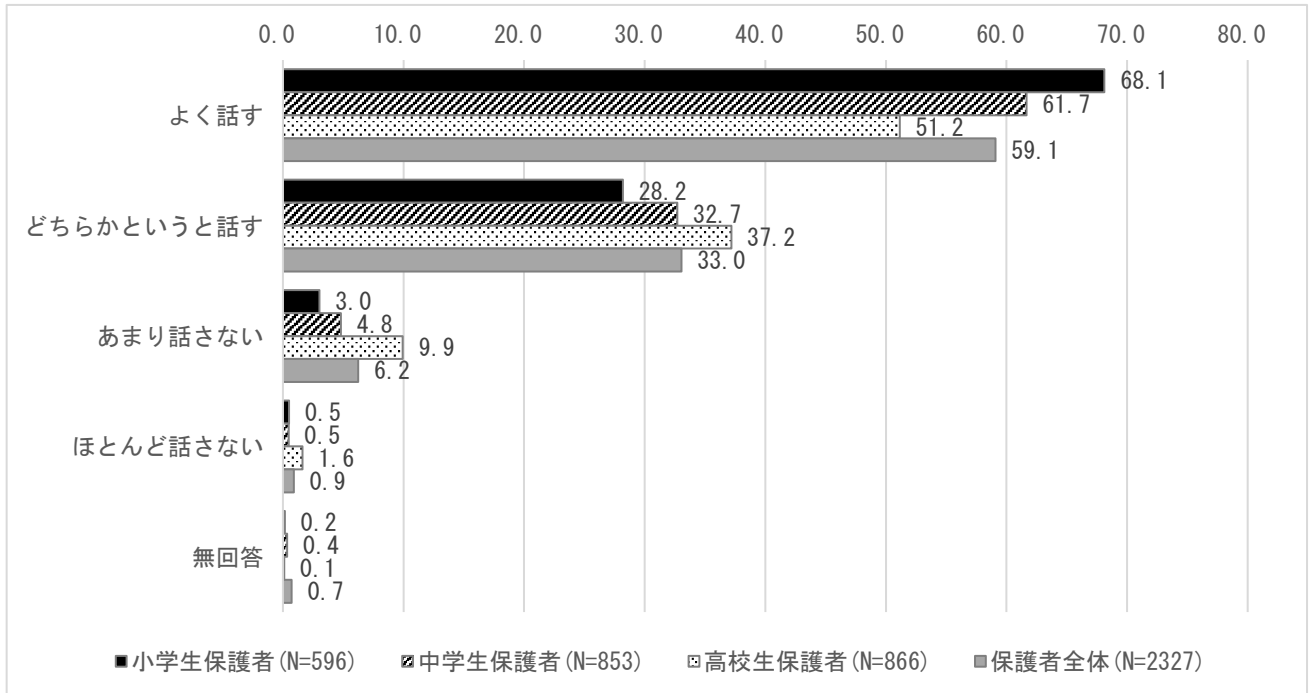
I-1 子どもとの会話について

[保護者 問 1]

あなたは、お子さんとどの程度会話をしますか。

【子どもとの会話】 [学校段階, 全体]

(%)

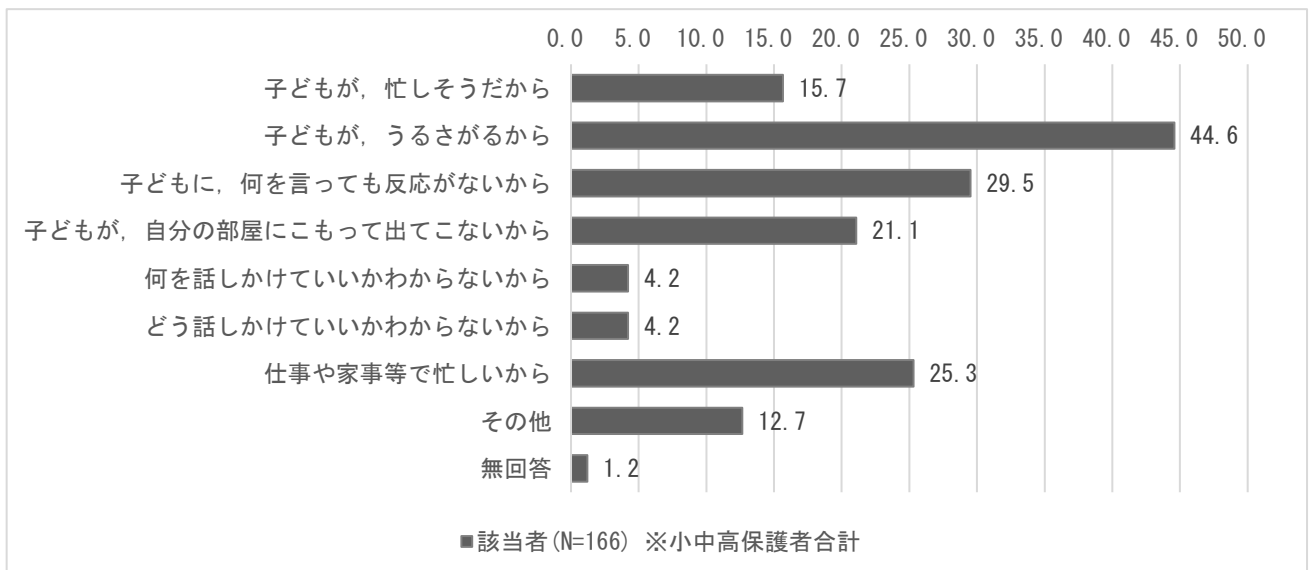


[保護者 問 2]

(「あまり話さない」, 「話さない」と回答した人) その理由はなんですか。(複数回答)

【会話をしない理由】 [保護者合計] (複数回答)

(%)



子どもとの会話をする頻度は、全ての学校段階で「よく話す」の割合が最も高く、次いで「どちらかという話す」となっている。

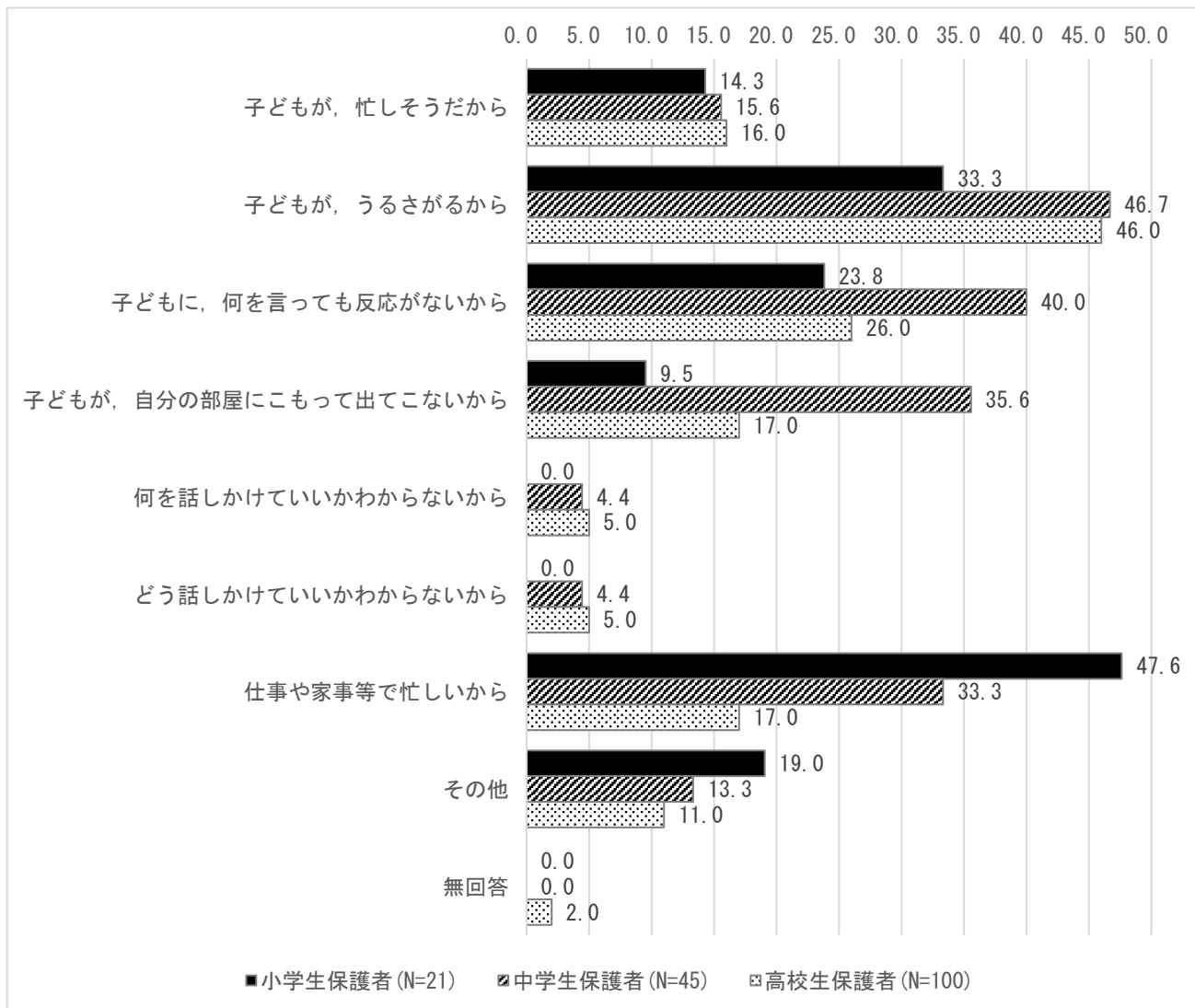
一方で、「あまり話さない」「ほとんど話さない」割合は学校段階の進行に従い上昇している。

子どもと会話をしない理由については、小学生保護者では「仕事や家事等で忙しいから」割合が最も高く、中学・高校生保護者では「子どもが、うるさがるから」となっている。

その他の記述としては、「時間が合わない」、「塾や習い事で忙しく、宿題が進まずイライラしている」、「スマートフォンに夢中になっている」などが挙げられた。

【会話をしない理由】[学校段階] (複数回答)

(%)



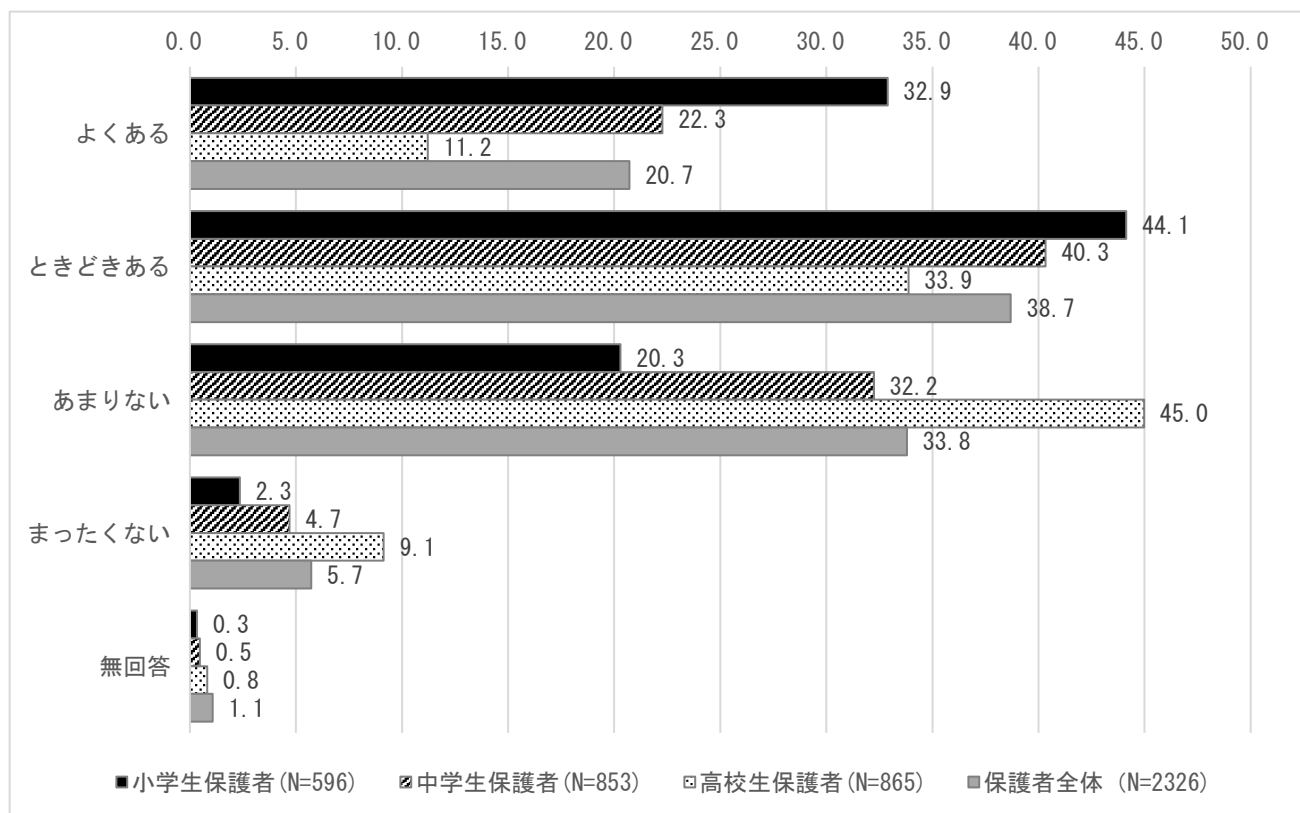
会話をしない理由を学校段階別に見ると、小学生保護者では「仕事や家事等で忙しいから」の割合が最も高く、中・高校生保護者では「子どもが、うるさいから」の割合が最も高くなっている。

[保護者 問5]

子どもが没頭して遊ぶことはありますか。（電子機器を使ったゲームやテレビを除く）

【子どもが没頭して遊ぶことの有無】[学校段階・全体]

(%)



電子機器を使ったゲームやテレビを除き、子どもが没頭して遊ぶことについて、小・中学生では「ときどきある」の割合が高く、高校生では「あまりない」の割合が高くなっている。

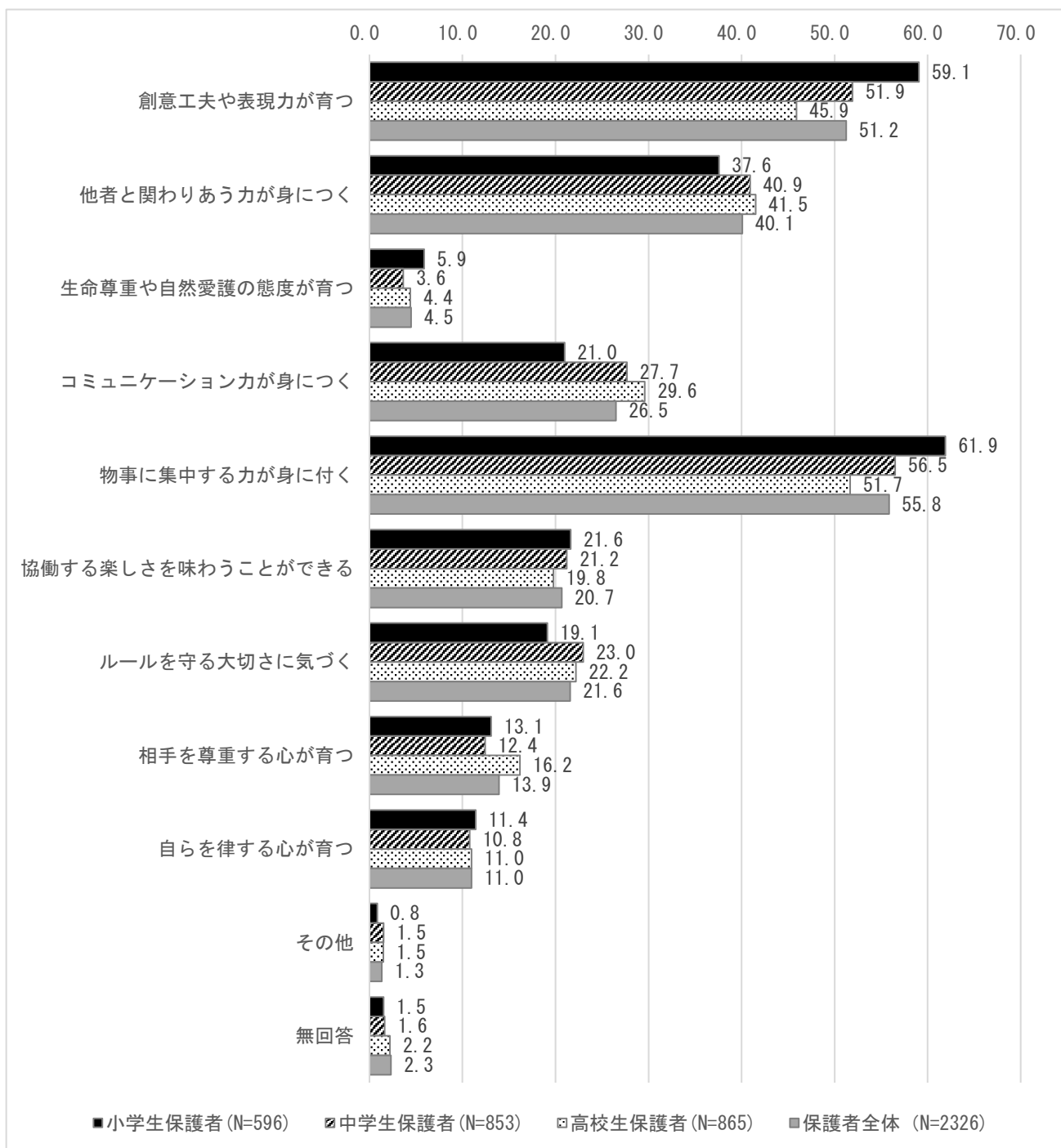
学校段階が進むと没頭して遊ぶ割合が低下しており、「まったくない」の割合も高校生では1割ほどとなっている。

【保護者 問6】

子どもが没頭して遊ぶことについて、どのように思いますか。（ゲームやテレビを除く）（3つまで）

【子どもが没頭して遊ぶことについて】【学校段階・全体】（3つまで）

(%)



子どもが没頭して遊ぶことについて保護者の考えとしては、全ての学校段階で「物事に集中する力が身に付く」割合が最も高く、次いで「創意工夫や表現力が身につく」となっている。

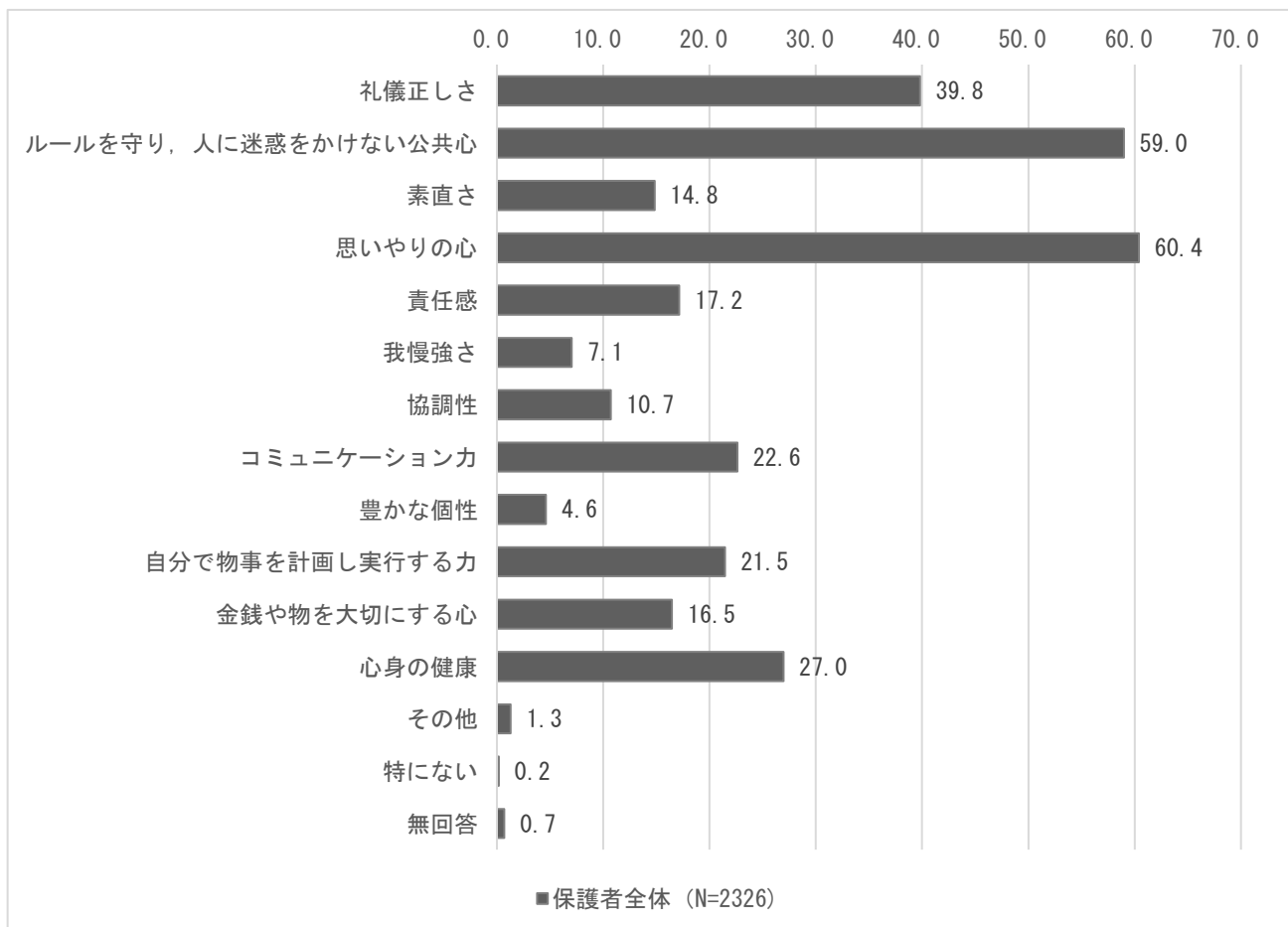
その他の記述としては、「遊びを通して能力が身につく」や「ストレスの発散の場になり、落ち着く」という意見が複数挙げられた。

I-2 子育てについて

[保護者 問3]

あなたが子育てをするうえで、子どもに特に身につけさせたいと考えていること。(3つまで)

【子どもに身につけさせたいこと】[保護者全体] (3つまで) (%)



保護者が子どもに身につけさせたいと考えていることは、「思いやりの心」「ルールを守り、人に迷惑をかけない公共心」の割合が高くなっており、次いで「礼儀正しさ」「心身の健康」となっている。

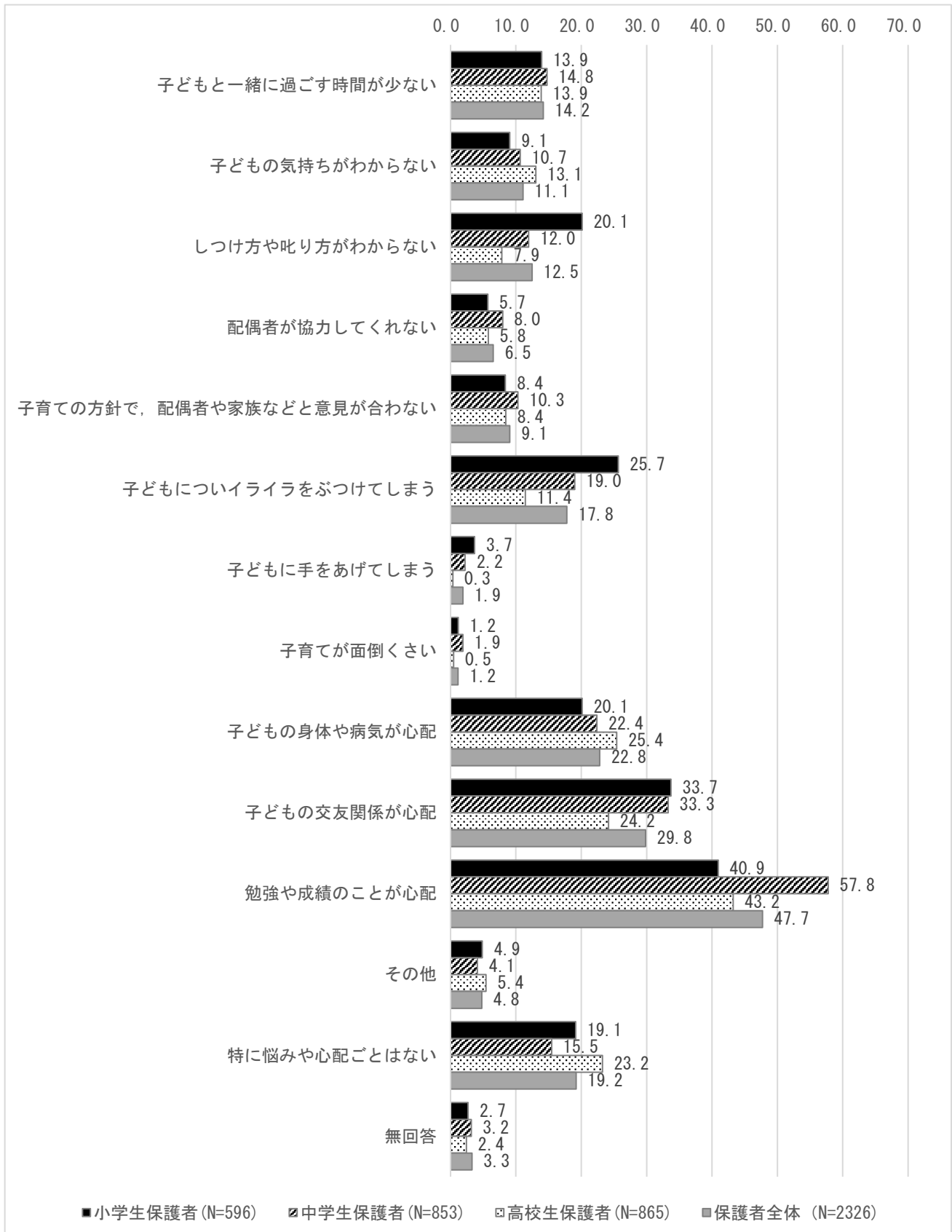
その他の記述では、「生きていく上で必要な知識や家事力」や「感謝する心」、「自己肯定感」などが複数挙げられた。

[保護者 問19]

あなたは、子育てについて、悩みや心配ごとはありますか。（複数回答）

【子育ての悩み・心配ごと】[学校段階、全体]（複数回答）

(%)



子育ての悩みや心配ごとについては、全ての学校段階で「勉強や成績のことが心配」の割合が最も高い。次いで、小・中学生では「子どもの交友関係が心配」、高校生では「子どもの身体や病気が心配」の割合が高くなっている。

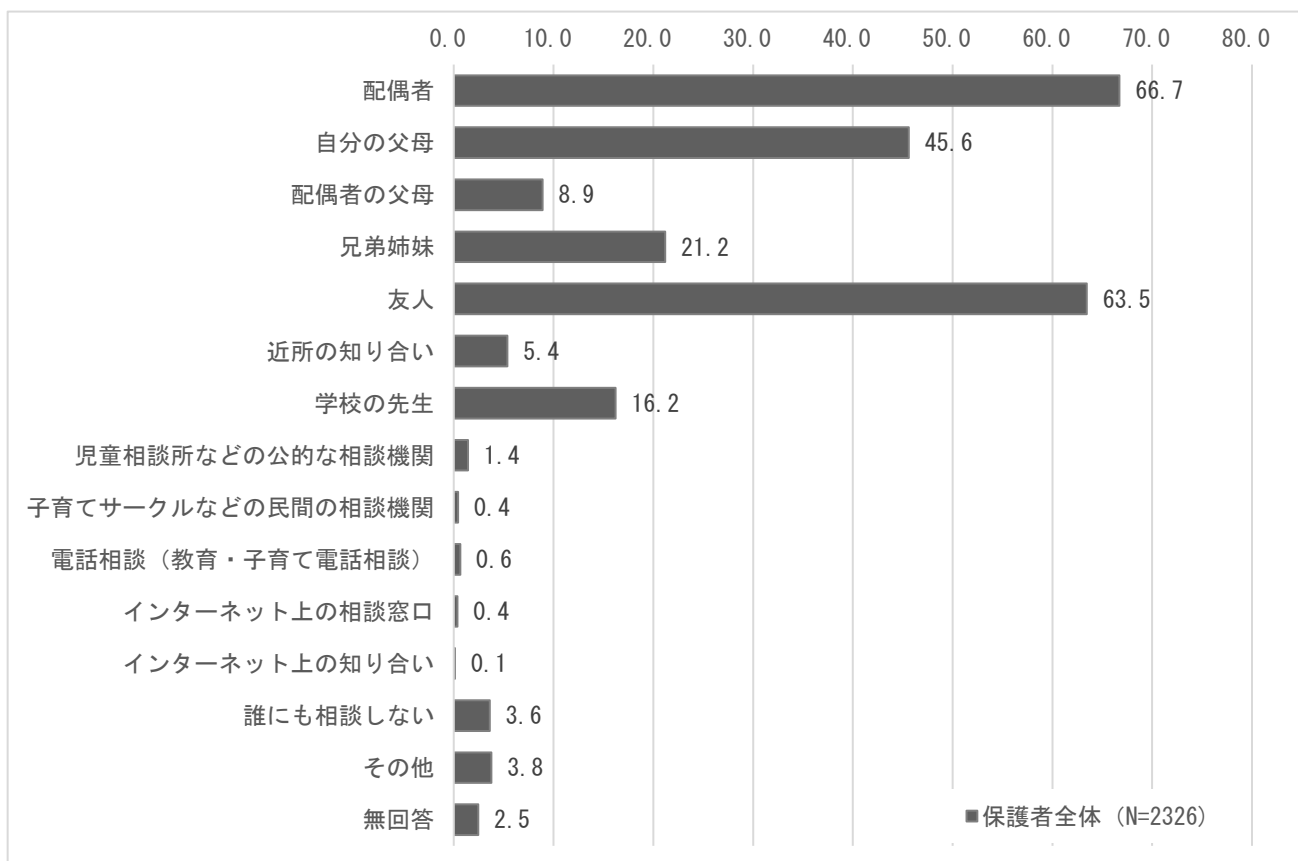
その他の記述では、「教育にかかる金銭面の問題」の記述が最も多く、「子どもの将来」「進路、進学」「ゲームをする時間が長い」等が挙げられた。

[保護者 問20]

あなたは、子育ての悩みや心配ごとを誰に相談しますか。（3つまで）

【悩みの相談相手】 [保護者全体] (3つまで)

(%)



子育ての悩み等を相談する相手として、「配偶者」の割合が最も高い 66.7%となっており、次いで「友人」63.5%、「自分の父母」45.6%となっている。

主に、子どもや保護者自身をよく知る人に相談している割合が高いと考えられる。

「学校の先生」に相談している割合は 16.2%で、悩みや心配ごとの中心である「勉強や成績のこと」、「子供の交友関係」について、相談する場合があると考えられる。

その他の記述では、約半数の保護者が「職場の人」となっている。

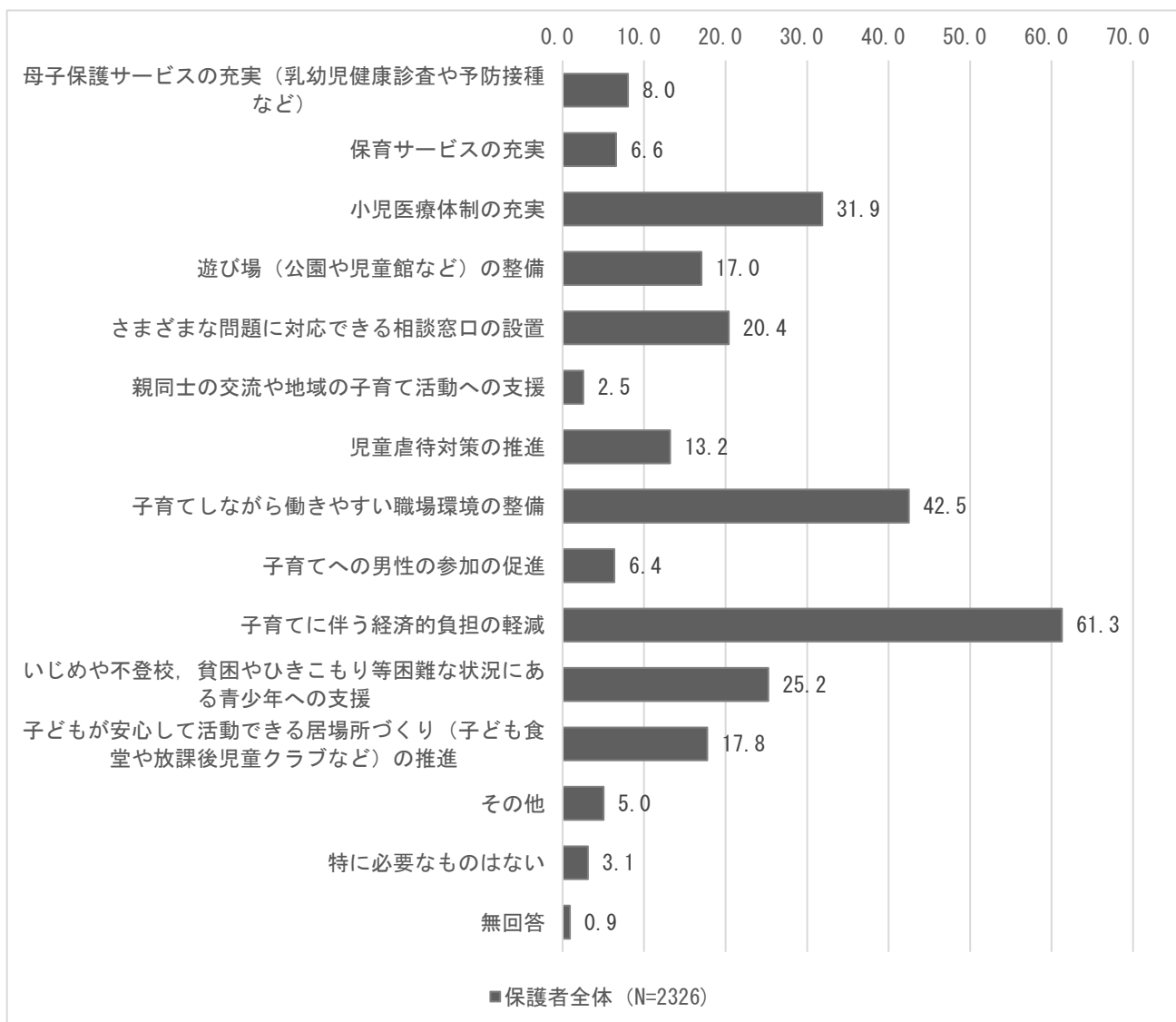
なお、「公共的及び民間の相談機関」の割合はごくわずかであった。

[保護者 問4]

あなたは、国・県や市町村に対して、さらに充実してほしいと思うことは何ですか。（3つまで）

【行政に求める子育て支援】[保護者全体]（3つまで）

(%)



行政に対し、充実してほしいと思うことは、「子育てに伴う経済的負担の軽減」の割合が最も高い61.3%となっている。次いで「子育てしながら働きやすい職場環境の整備」42.5%、「小児医療体制の充実」31.9%となっている。

その他の記述では、「学校・通学路の安全（整備・防犯）」、「交通の便の向上」、「母子家庭への支援」、「図書館等の学習に利用できる場の整備」、「子供のいる家庭へのサービスの充実」、「公立高校の設置」についての意見が複数あった。

II 地域活動

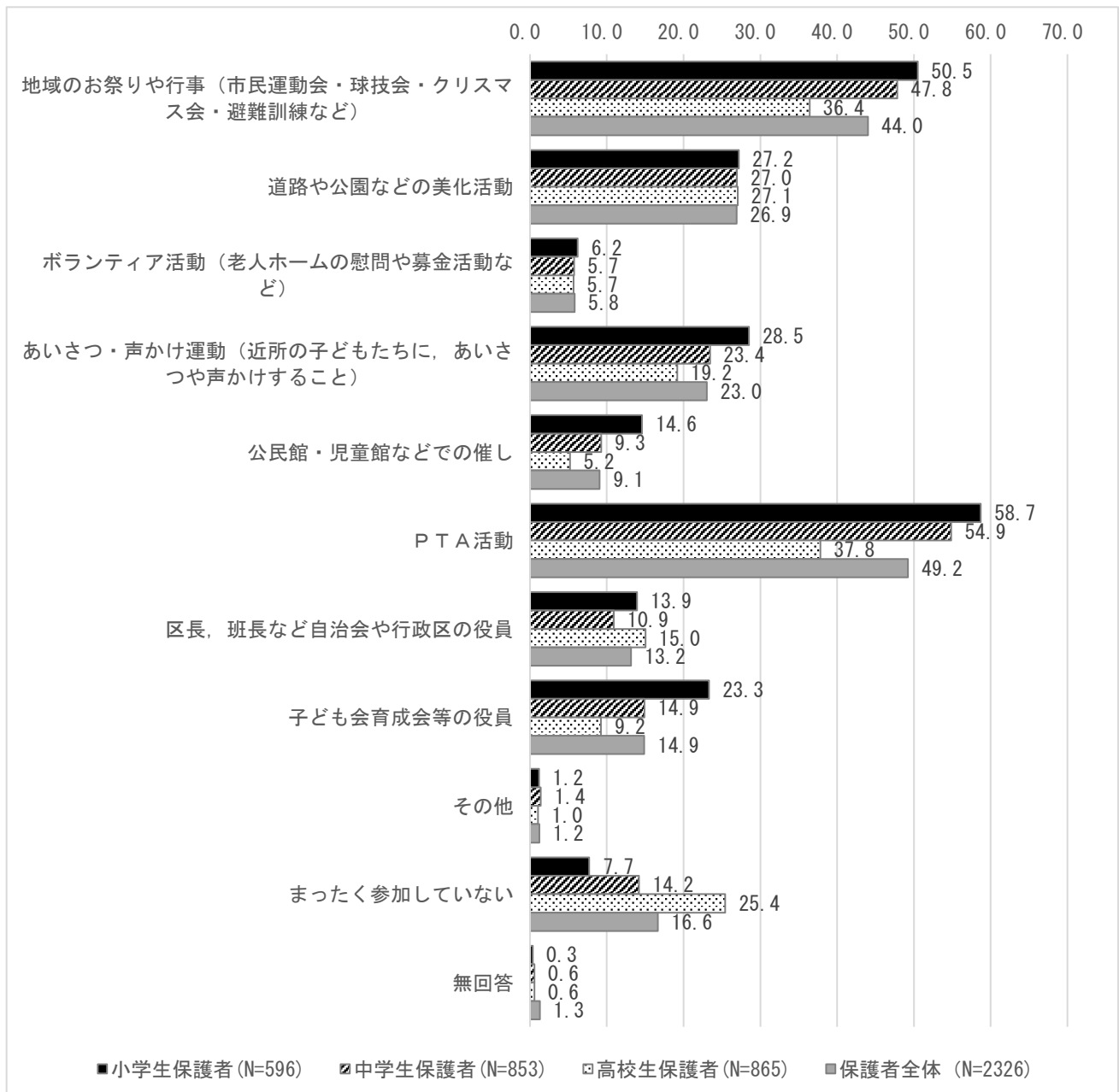
II-1 地域活動への参加について

[保護者 問7]

あなたは、この1年間に、地域の活動に参加したことはありますか。(複数回答)

【自身の地域での活動】[学校段階, 全体] (複数回答)

(%)



地域活動に参加している割合は、全ての学校段階で「P T A活動」が最も高く、次いで「地域のお祭りや行事」が高くなっている。

学校段階の進行に従い、地域活動への参加している割合は低下していく傾向がみられ、地域活動に「全く参加していない」割合は、小学生保護者の7.7%に対し高校生の保護者では25.4%となっている。

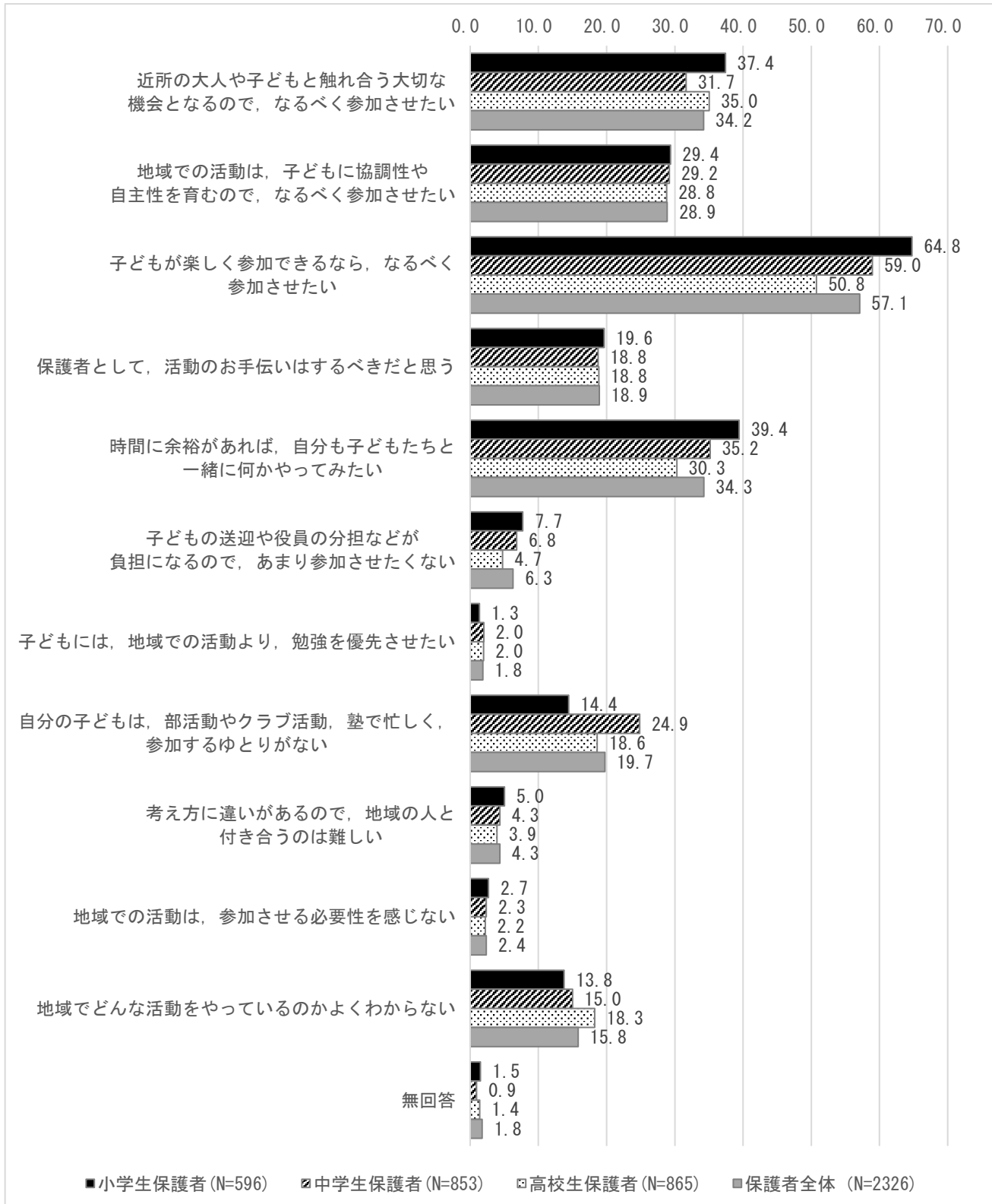
Ⅱ－２ 地域活動への意識について

[保護者 問8]

地域で行う青少年への様々な活動について、次の中で、あなたの考えにあてはまるものを選んでください。（複数回答）

【青少年の地域活動に関する意識】[学校段階]（複数回答）

(%)



地域活動への参加については、「子どもが楽しく参加できるなら，なるべく参加させたい」の割合が全ての学校段階で最も高くなっている。ほか，「時間に余裕があれば，自分も子どもたちと一緒に何かやってみたい」，「地域での活動は，子どもに協調性や自主性を育むので，なるべく参加させたい」「近所の大人や子どもと触れ合う大切な機会となるので，なるべく参加させたい」の割合はおおむね3割程度となっている。

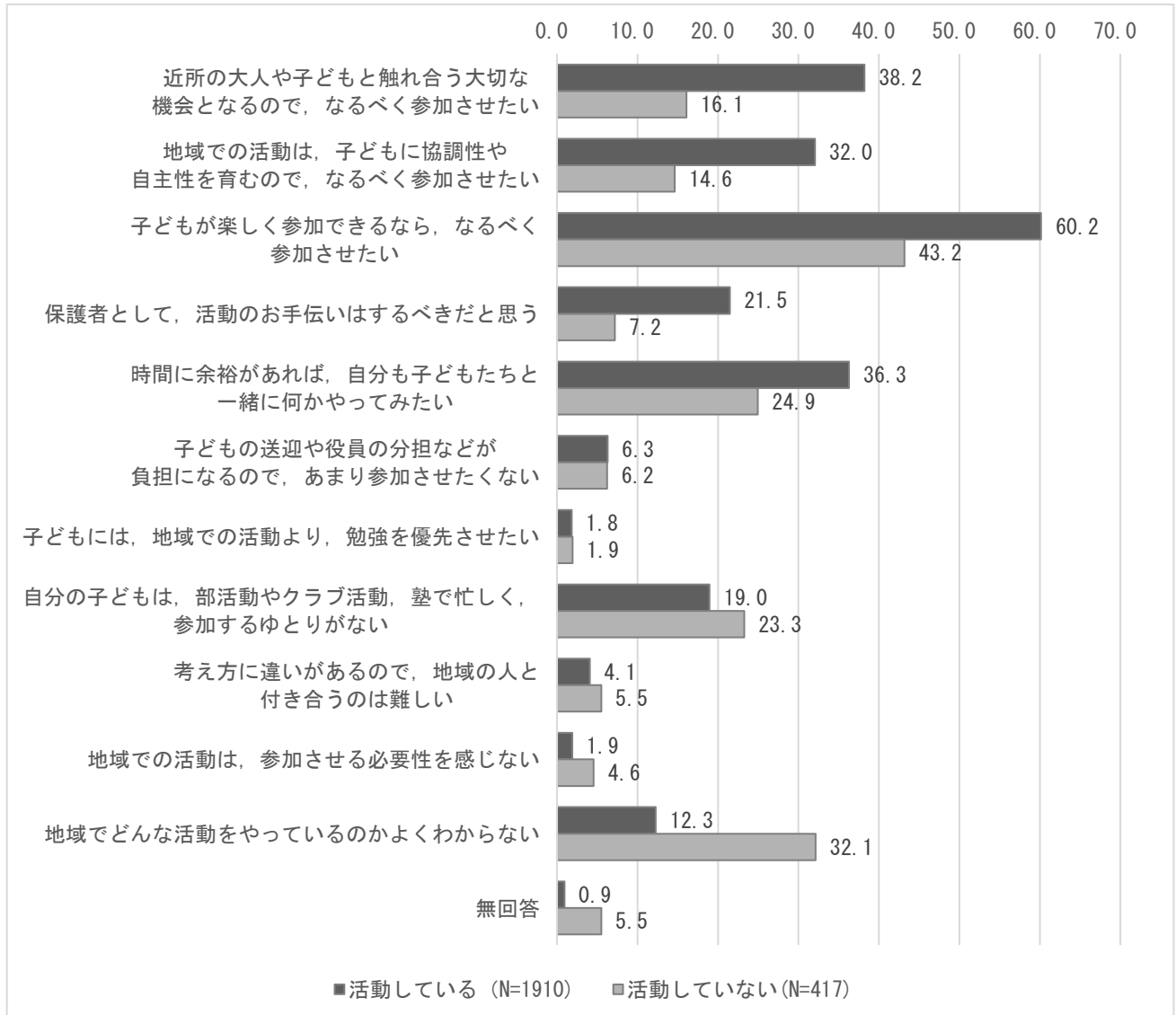
一方，「自分の子どもは，部活動やクラブ活動，塾で忙しく，参加するゆとりがない」の割合は2割ほどあり，中学生保護者が最も高くなっている。

「地域でどんな活動をやっているのかよくわからない」と回答した保護者も15.8%おり，地域の身近な情報が一部には伝わっていない状況がうかがえる。

参考：保護者の地域活動参加の有無と青少年の地域活動に関する意識

【青少年の地域活動に関する意識 ②保護者の体験の有無による比較】

[保護者全体] (複数回答) (%)



青少年の地域活動に関する意識について、「活動している保護者」群 (N=1910) と「活動していない保護者」群 (N=417) (※)を比較すると、「活動している保護者」ほど、青少年の地域活動の参加に肯定的な考えを持っている割合が高い。

「活動していない保護者」は「地域でどんな活動をやっているのかよくわからない」の割合が高くなっている。

※ 1票が活動している・いない両方を回答しているため票数が回答者数より多くなっている。

III インターネットの利用

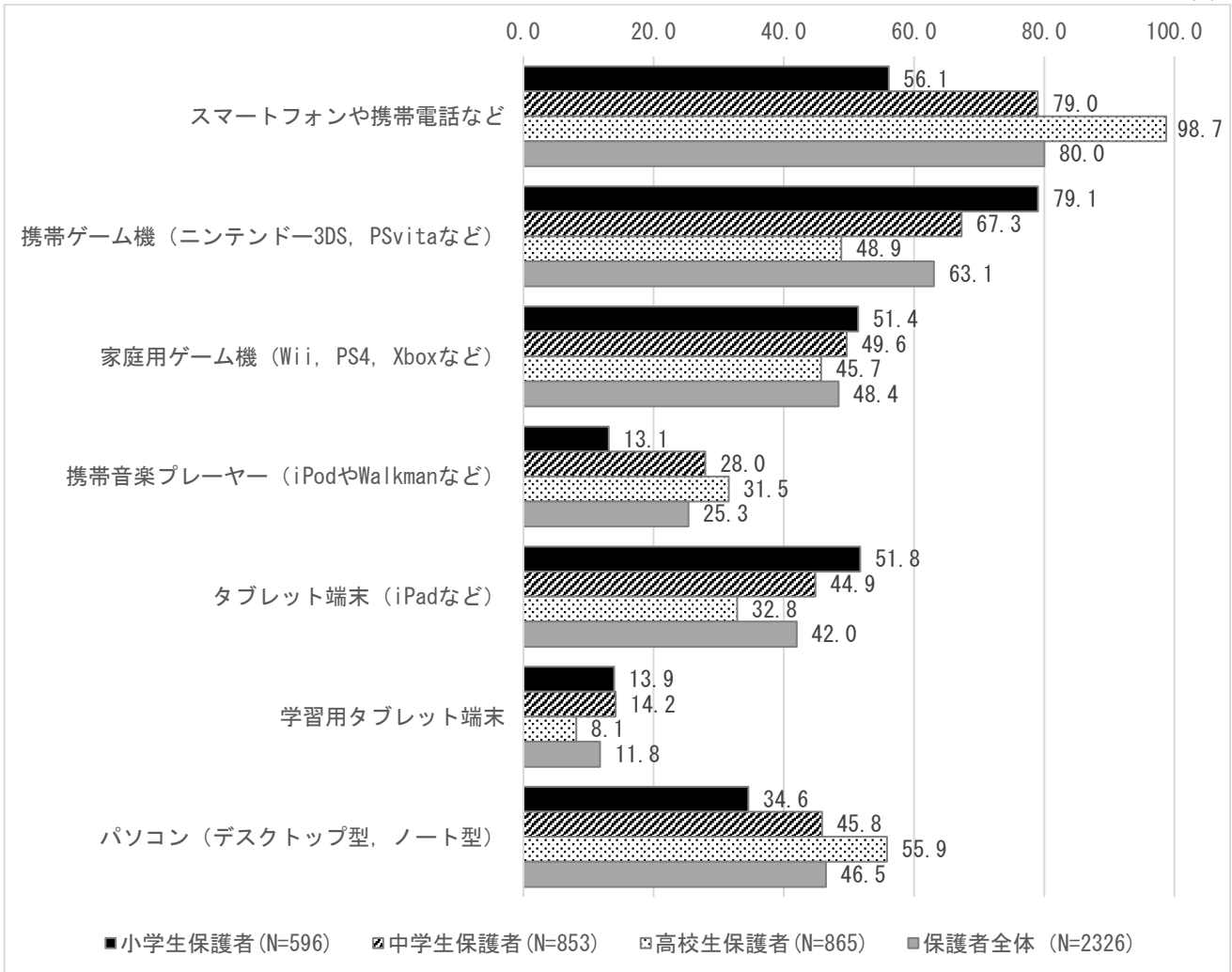
III-1 子どもが利用しているインターネット接続機器とフィルタリングの利用

[保護者 問9]

あなたのお子さんは、インターネットに接続できる機器のうち、何を使っていますか。

【子どもが利用している（注）インターネット接続機器】

(%)



（注）「利用している」とは、子ども専用で利用、または家族で共用している場合を含む。

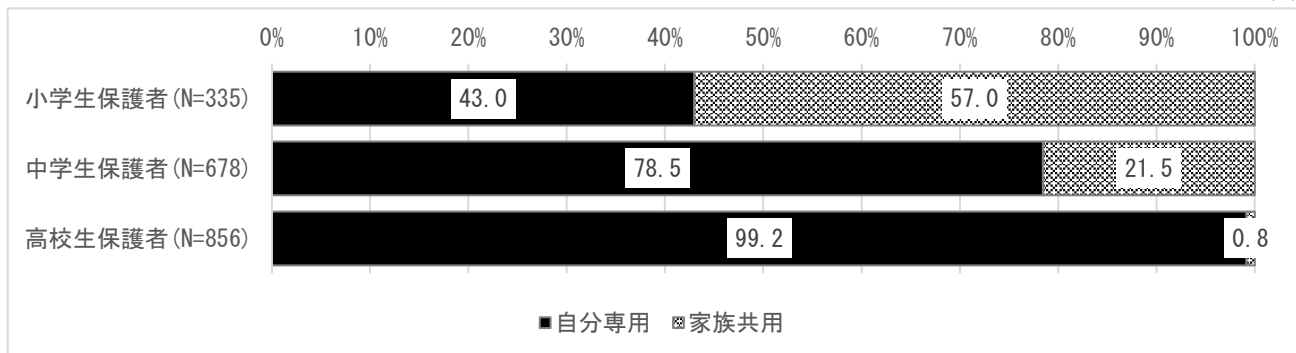
インターネットに接続できる機器の割合は、「スマートフォンや携帯電話など」の利用している割合が高い80.0%であり、小学生の割合56.1%から学校段階の進行に従い上昇し、高校生では98.7%となっている。

「携帯音楽プレーヤー」「パソコン」の割合は学校段階の進行に従い上昇しているが、「（携帯・家庭用）ゲーム機」「タブレット端末」の割合は学校段階の進行に従い低下している。

【各機器を子どもに自分専用で利用させている割合（機種別）】

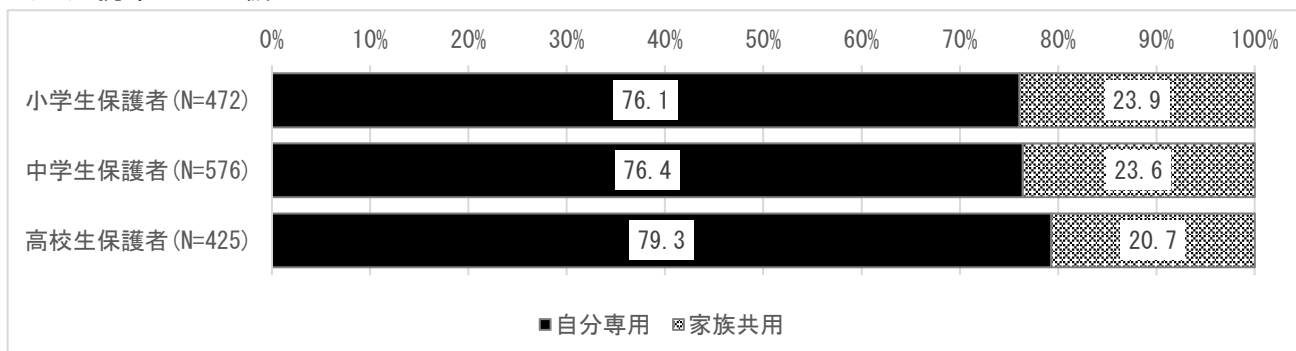
(1) スマートフォンや携帯電話など

(%)



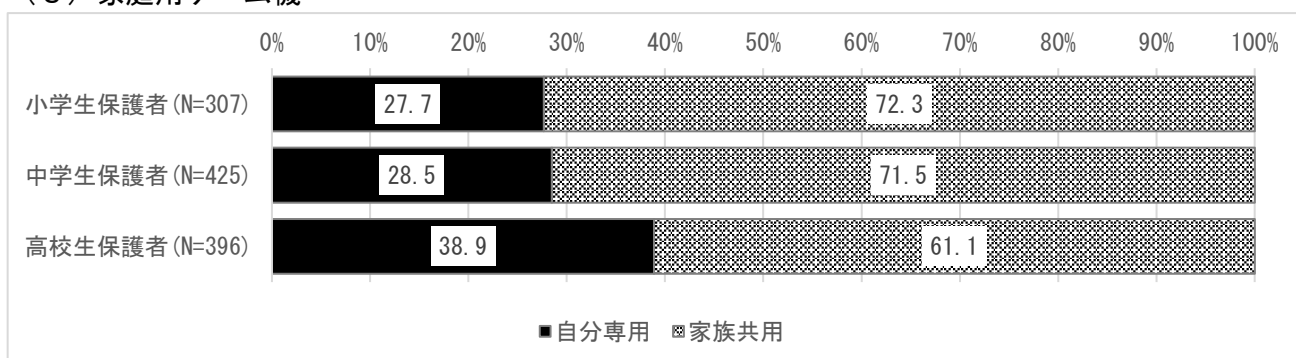
(2) 携帯ゲーム機

(%)



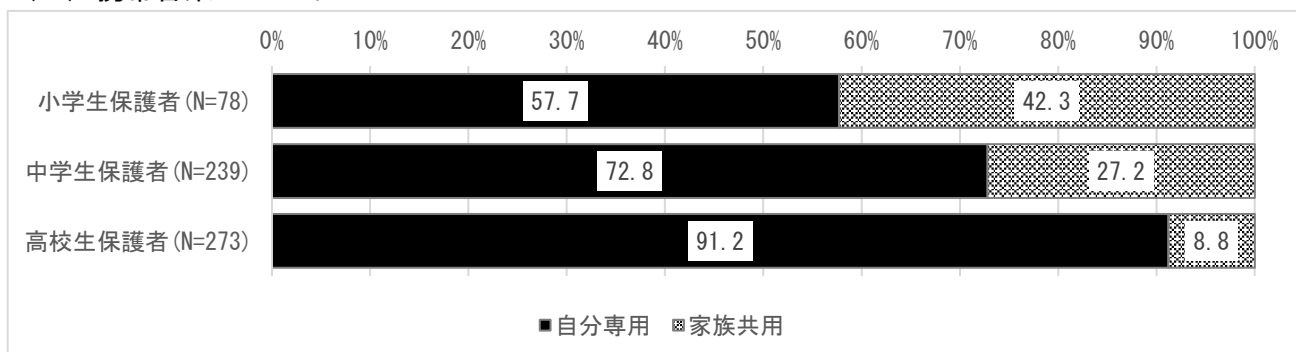
(3) 家庭用ゲーム機

(%)



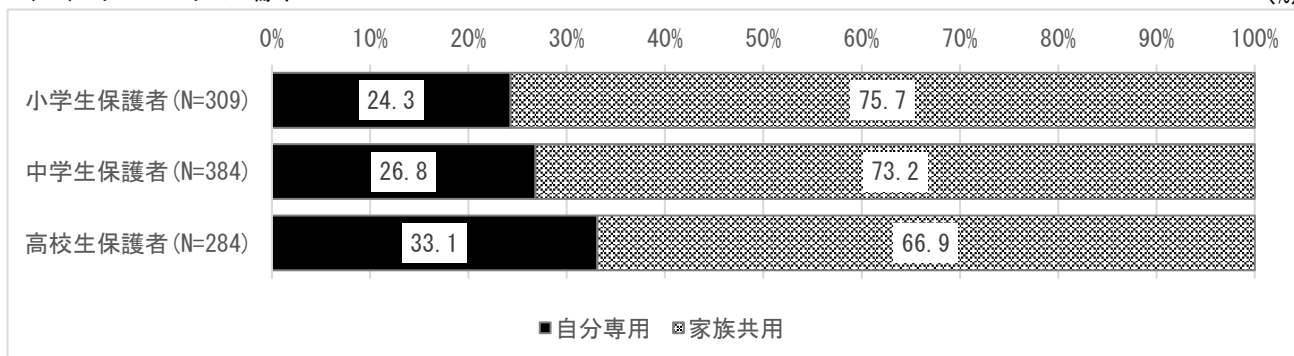
(4) 携帯音楽プレイヤー

(%)



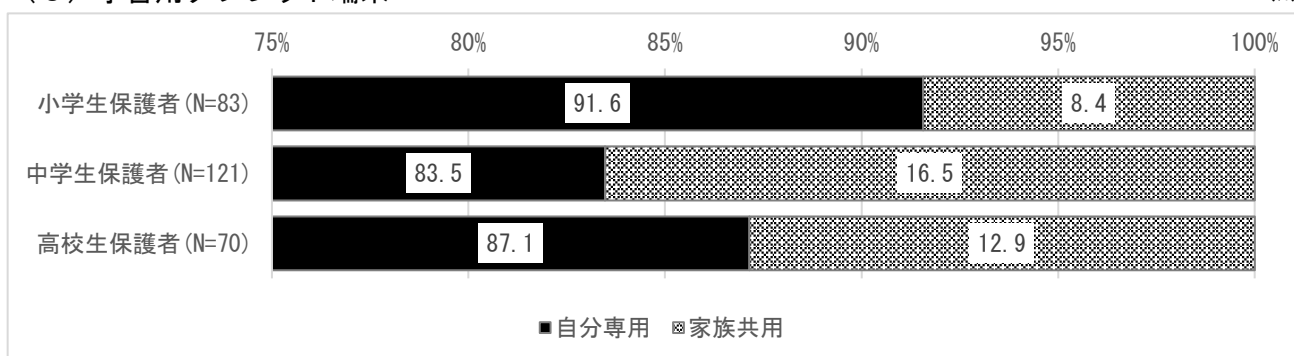
(5) タブレット端末

(%)



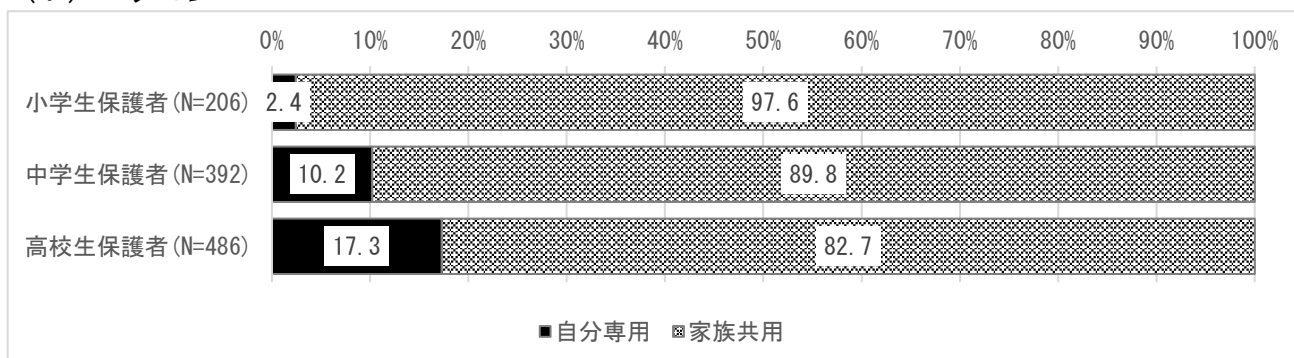
(6) 学習用タブレット端末

(%)



(7) パソコン

(%)



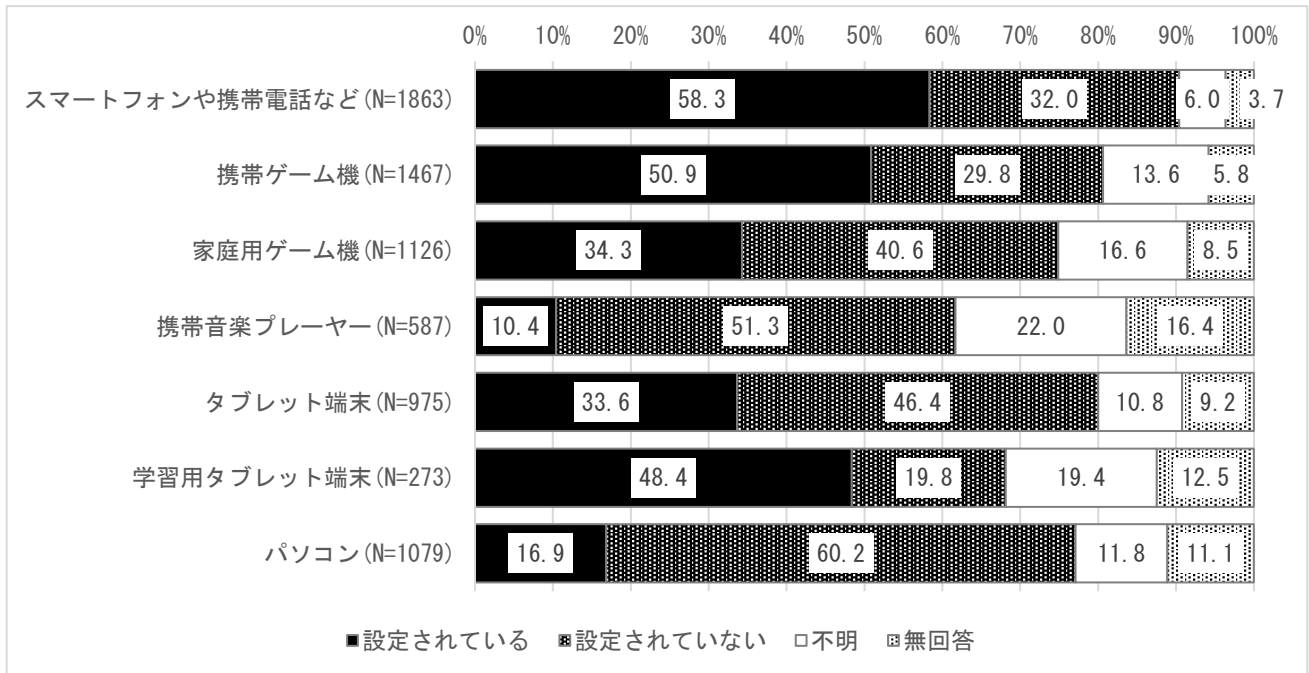
学習用タブレット端末を除き、学校段階の進行に従い「自分専用」の割合が上昇している。

「スマートフォンや携帯電話など」や「携帯音楽プレーヤー」は「自分専用」の割合は小学生では5割程度となっているが、学校段階の進行に従い「自分専用」が9割以上となっている。

[保護者 問11]

(子どもが利用している機器について) それらにフィルタリングを設定していますか。

【子どもの利用する機器に対するフィルタリング設定率 ①機器別】 [保護者全体] (%)

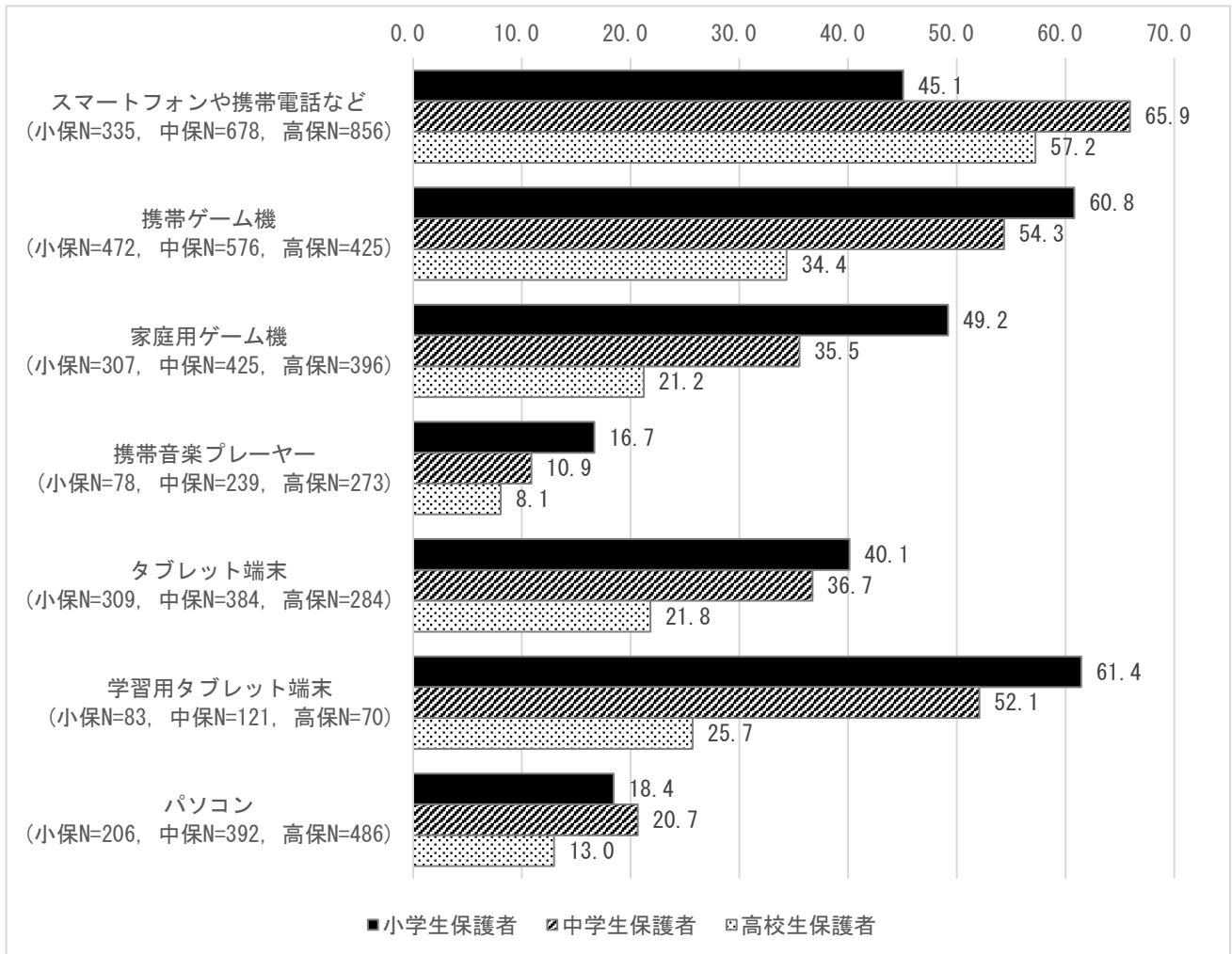


フィルタリングが設定されている割合は「スマートフォンや携帯電話など」が 58.3%と最も高くなっているが、「携帯音楽プレーヤー」「パソコン」は低くなっている。

子どもが利用する機器については、フィルタリングの設定をすることが望ましい。

【各機器でフィルタリングを設定している割合】[学校段階]

(%)



子どもが利用している機器に、フィルタリングを設定している割合を学校段階別にみると、小学生では「スマートフォンや携帯電話など」「パソコン」を除いてフィルタリングを設定している割合が高い。学校段階の進行に従い、フィルタリングを設定している割合は低下する傾向がある。

小学生は「スマートフォンや携帯電話など」を家族と共用している割合が高いことから、フィルタリングを設定している割合が低いものと考えられる。

【指標 [小・中学生のフィルタリング導入率]について】

小・中学生のスマホ・携帯電話等、携帯ゲーム機、携帯音楽プレーヤーのフィルタリング導入率

基準値 (H26)	目標値 (H32)	実績値 (R1)
42.3%	70.0%	55.6%

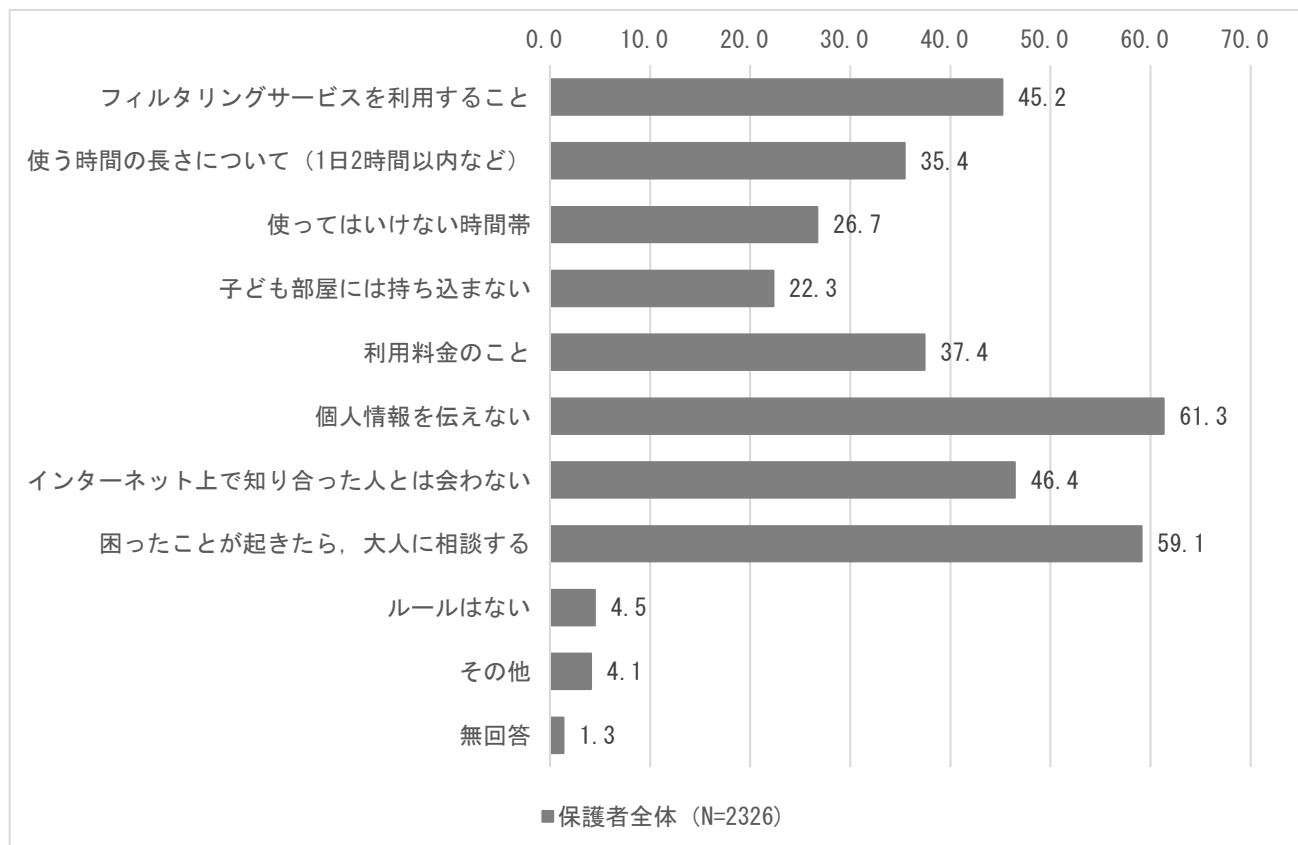
[保護者 問10]

「インターネットを使うときのルールとして、家族でどんなことを決めていますか。」

(複数回答)

【インターネットを使うときのルール】[保護者全体] (複数回答)

(%)

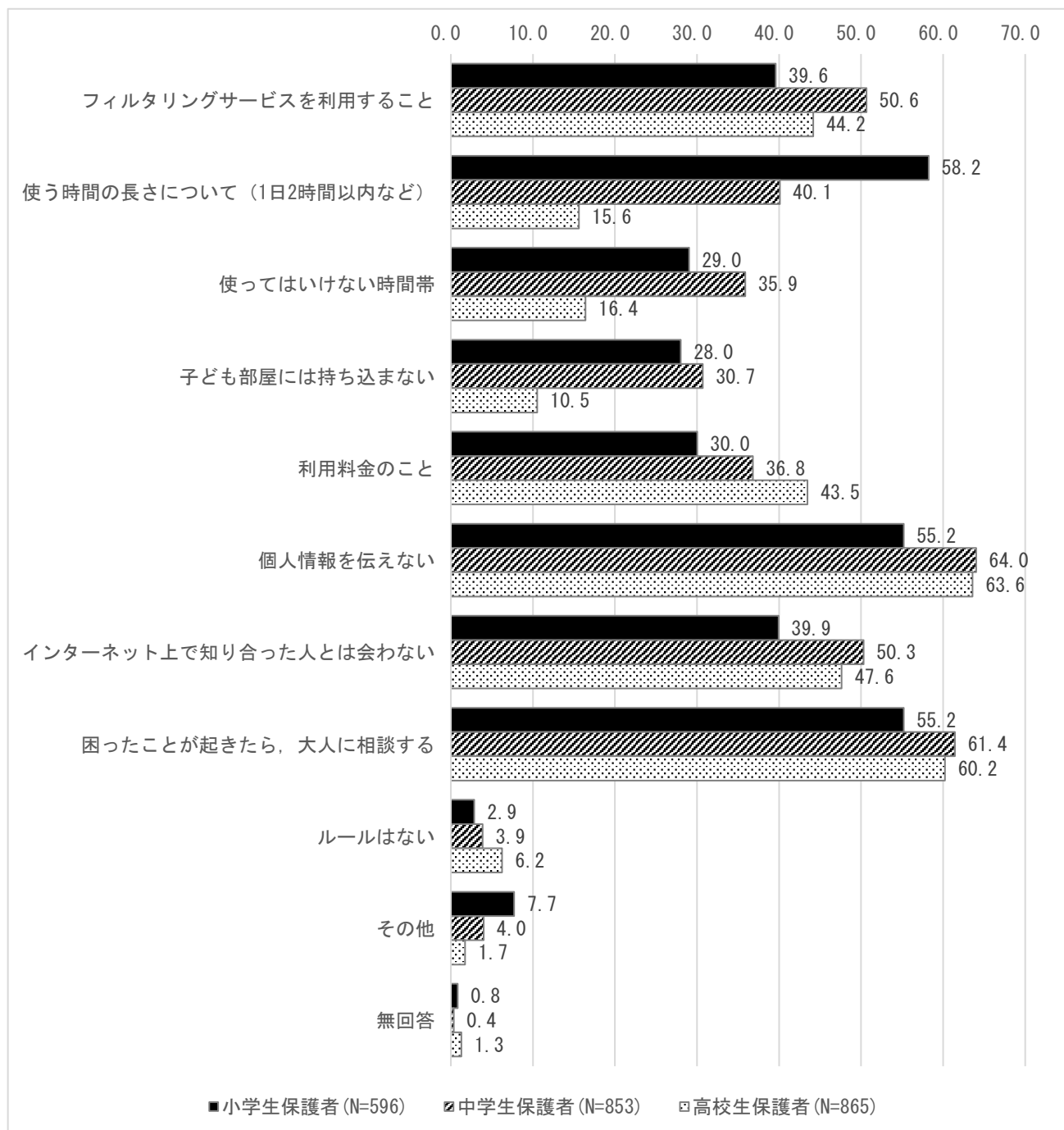


インターネットを使うときのルールとして決めている割合が最も高いのは「個人情報を伝えない」61.3%、次いで「困ったことが起きたら、大人に相談する」59.1%、「インターネット上で知り合った人とは会わない」49.1%、「フィルタリングサービスを利用すること」45.2%となっている。

その他の記述では、「親と一緒にのみ使う」や「調べ物のみに限定」といった内容が挙げられたほか、「インターネットは使わせていない (使っていない)」との記述も複数あった。

【インターネットを使うときのルール】[学校段階] (複数回答)

(%)



学校段階別に見ると、「個人情報を伝えない」、「困ったことが起きたら、大人に相談する」の割合は全ての学校段階別において高くなっている。

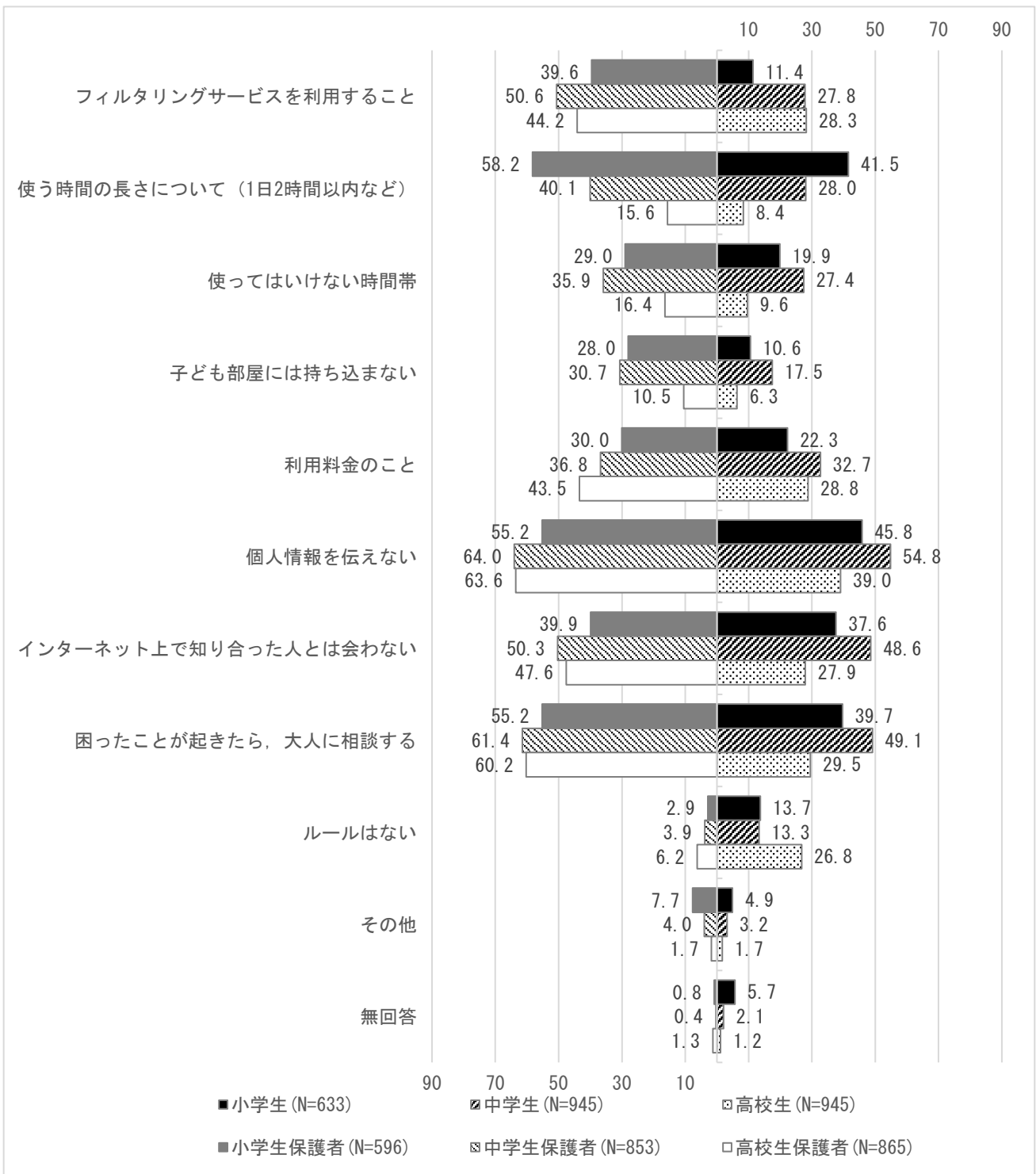
「使う時間の長さについて」の割合は、小学生保護者が58.2%と最も高くなっているが、学校段階の進行に従って低下し、高校生保護者では15.6%となっている。

一方で、「利用料金のこと」の割合は、学校段階が進行するにつれて上昇している。

参考：インターネットを使うときのルール 子どもとの比較

(中心軸の左側が保護者、右側が子ども)

(%)

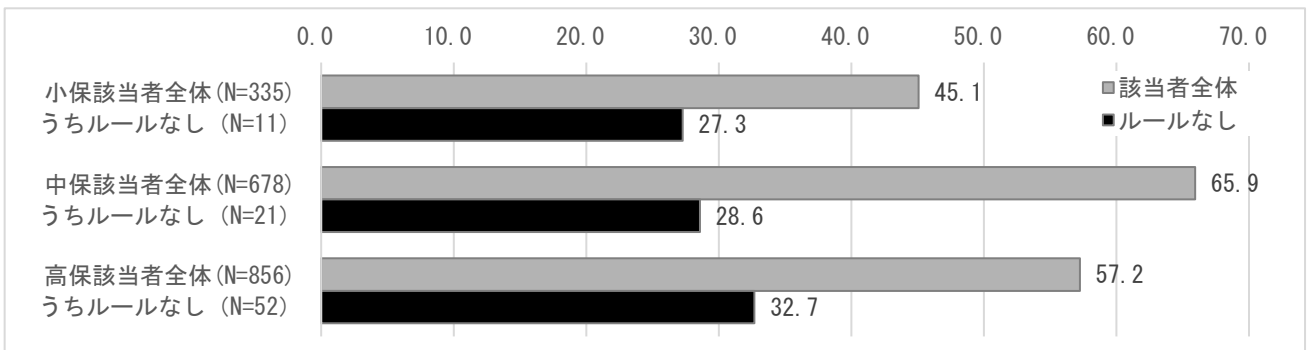


インターネットを使うときのルールについて、保護者と子どもとを比較をすると、全てのルールにおいて、子どもの割合が低くなっている。保護者はルールを設定したと考えていることに対し、子どもはルールとして捉えておらず、両者に認識の差があることが認められる。

参考：ルールの有無とフィルタリング設定率

(1) スマートフォンや携帯電話など

(%)

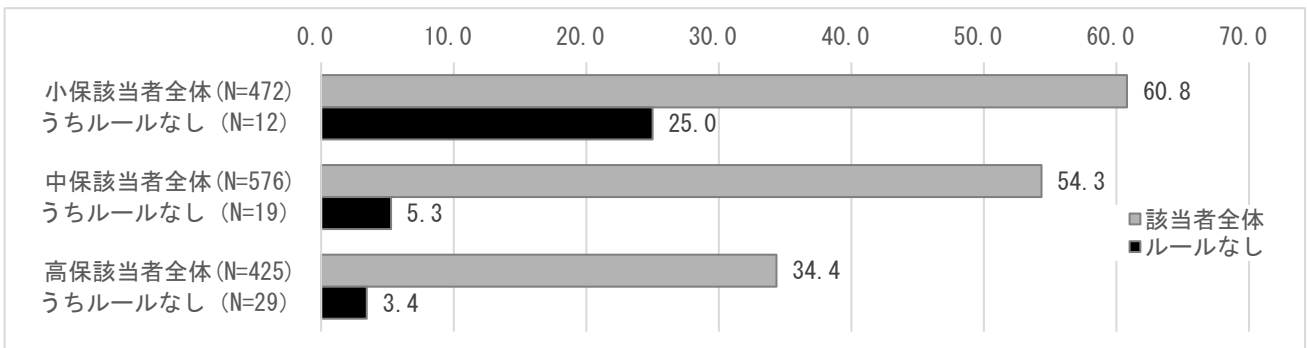


※該当者全体とは、子どもが当該機器を利用している保護者の総数。

ルールなしは、そのうち、インターネット利用に関してルールを設定していない保護者の数で、内数。

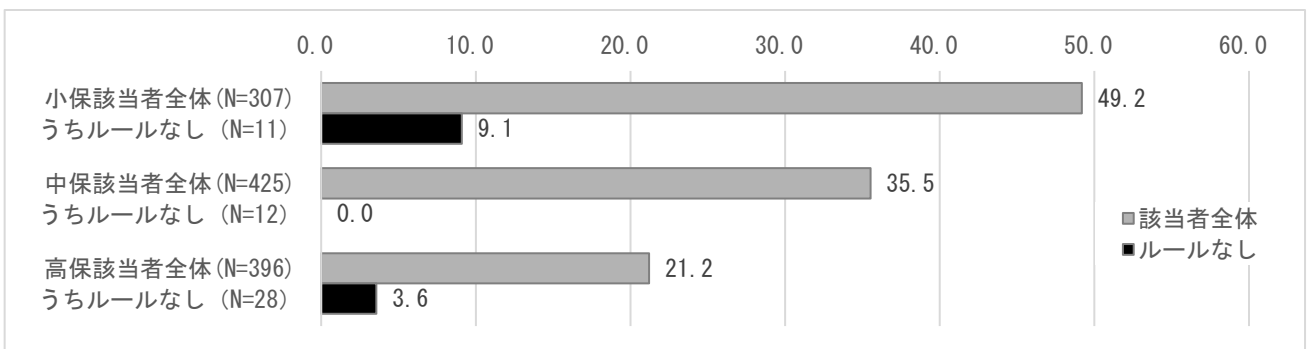
(2) 携帯ゲーム機

(%)



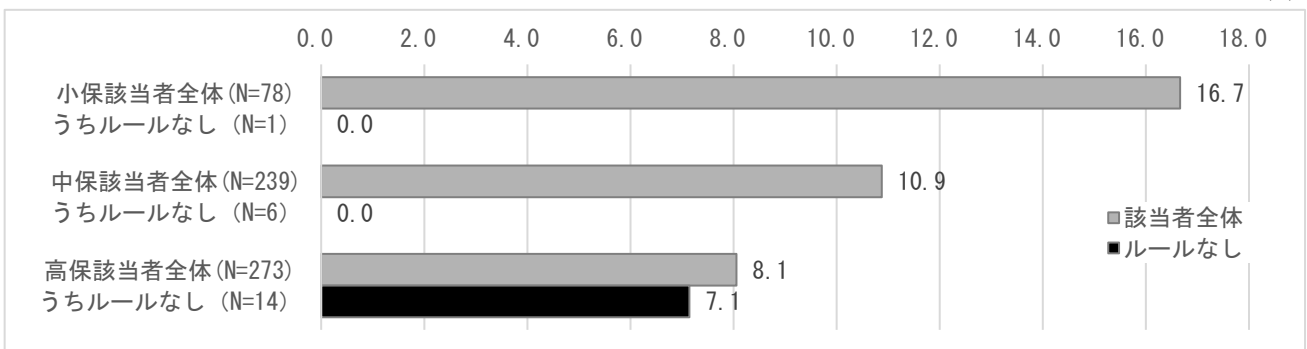
(3) 家庭用ゲーム機

(%)



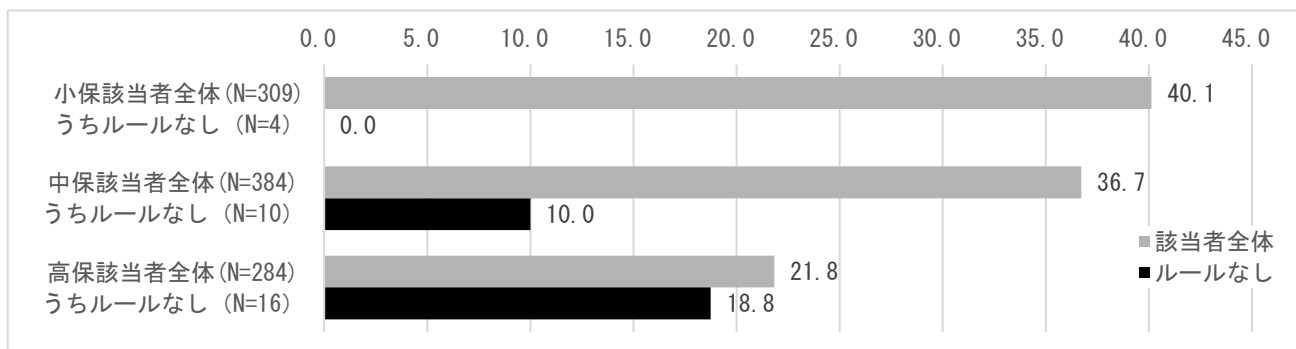
(4) 携帯音楽プレイヤー

(%)



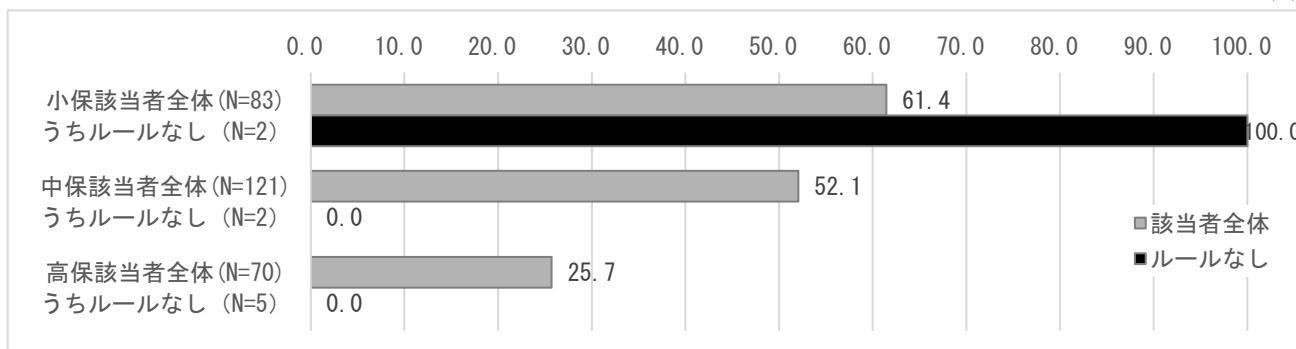
(5) タブレット端末

(%)



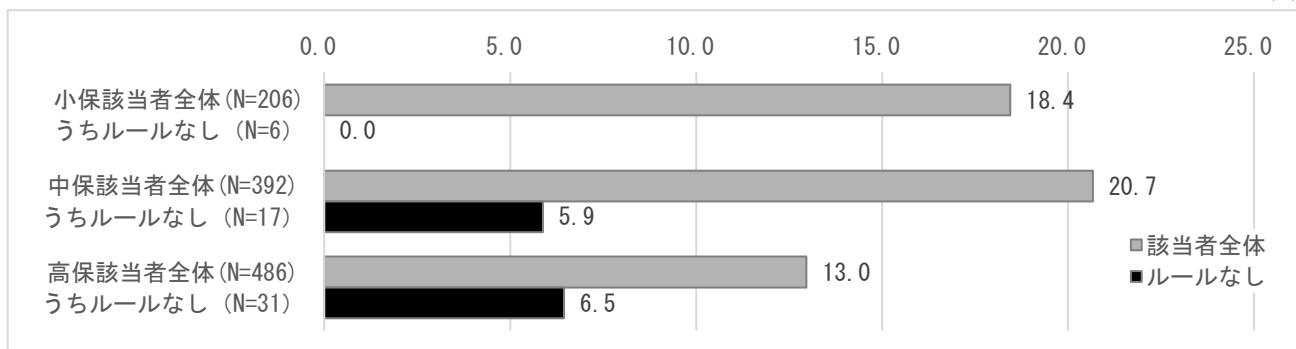
(6) 学習用タブレット端末

(%)



(7) パソコン

(%)



※「ルールなし」の割合については該当者数が少数のため大きな数値となっているものがある。

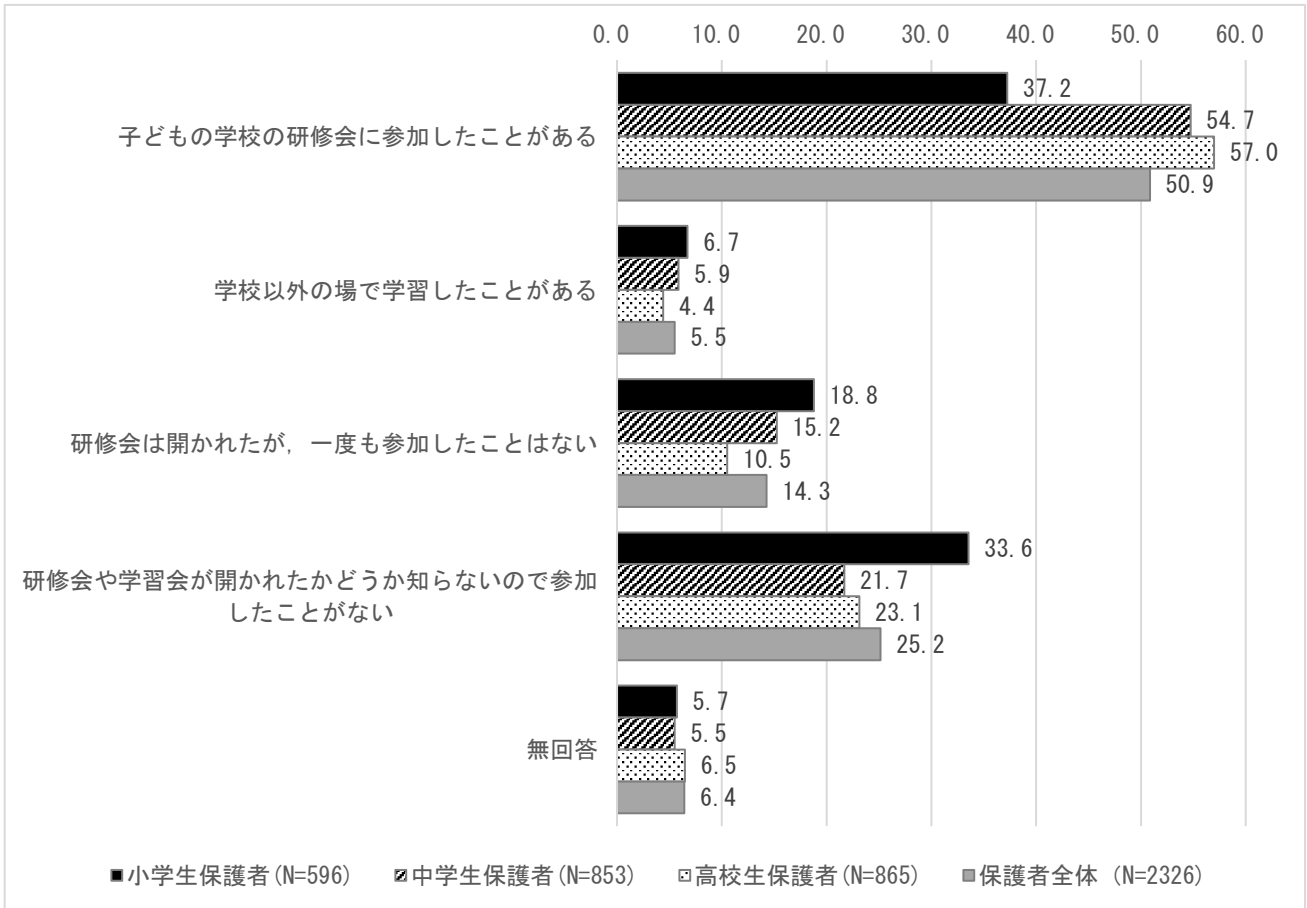
全体的にルールのない家庭ではフィルタリングの設定率が低くなっている。

[保護者 問12]

あなたは、携帯電話（ケータイ）やスマートフォン等のインターネットに関する研修会や学習会に参加したことがありますか。（複数回答）

【インターネットに関する研修会への参加】[学校段階, 全体]（複数回答）

(%)



「子どもの学校の研修会に参加したことがある」割合は全ての学校段階で最も高くなっている。学校段階が進んだ保護者ほど、これまで研修会等に参加する機会が多かったためと考えられる。

IV 子どもの行動に対する意識

IV-1 深夜外出

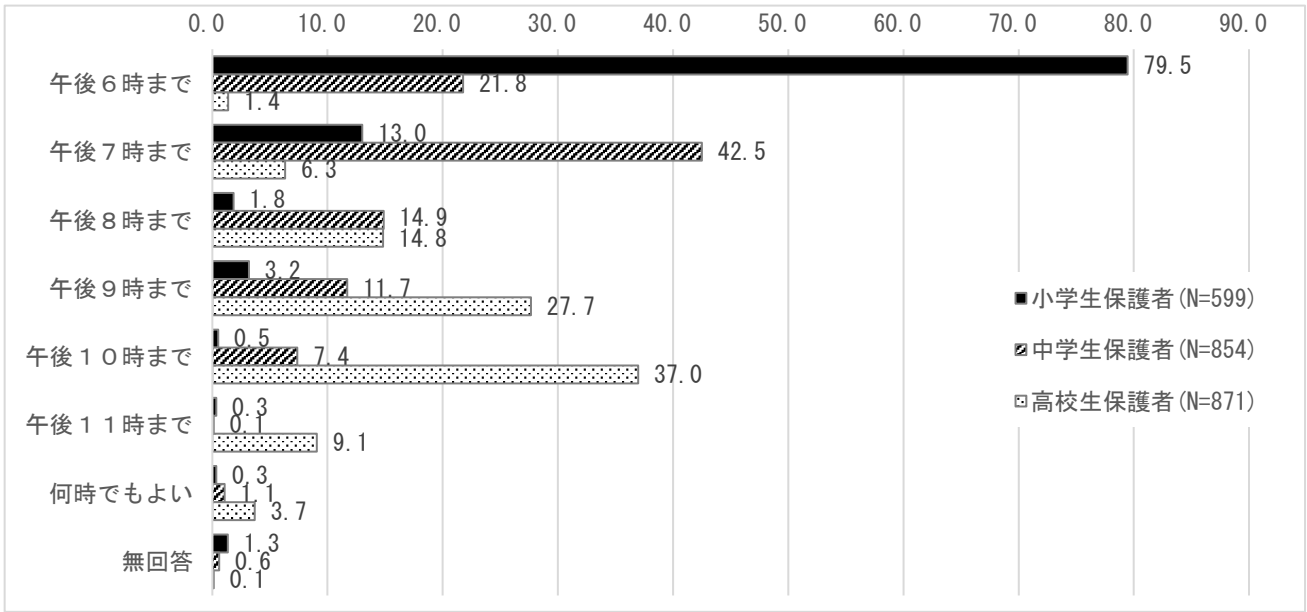
[保護者 問13, 14]

あなたは、お子さんの帰宅が遅くなる場合、何時までなら認めますか。

また、その理由は何ですか。（複数回答）

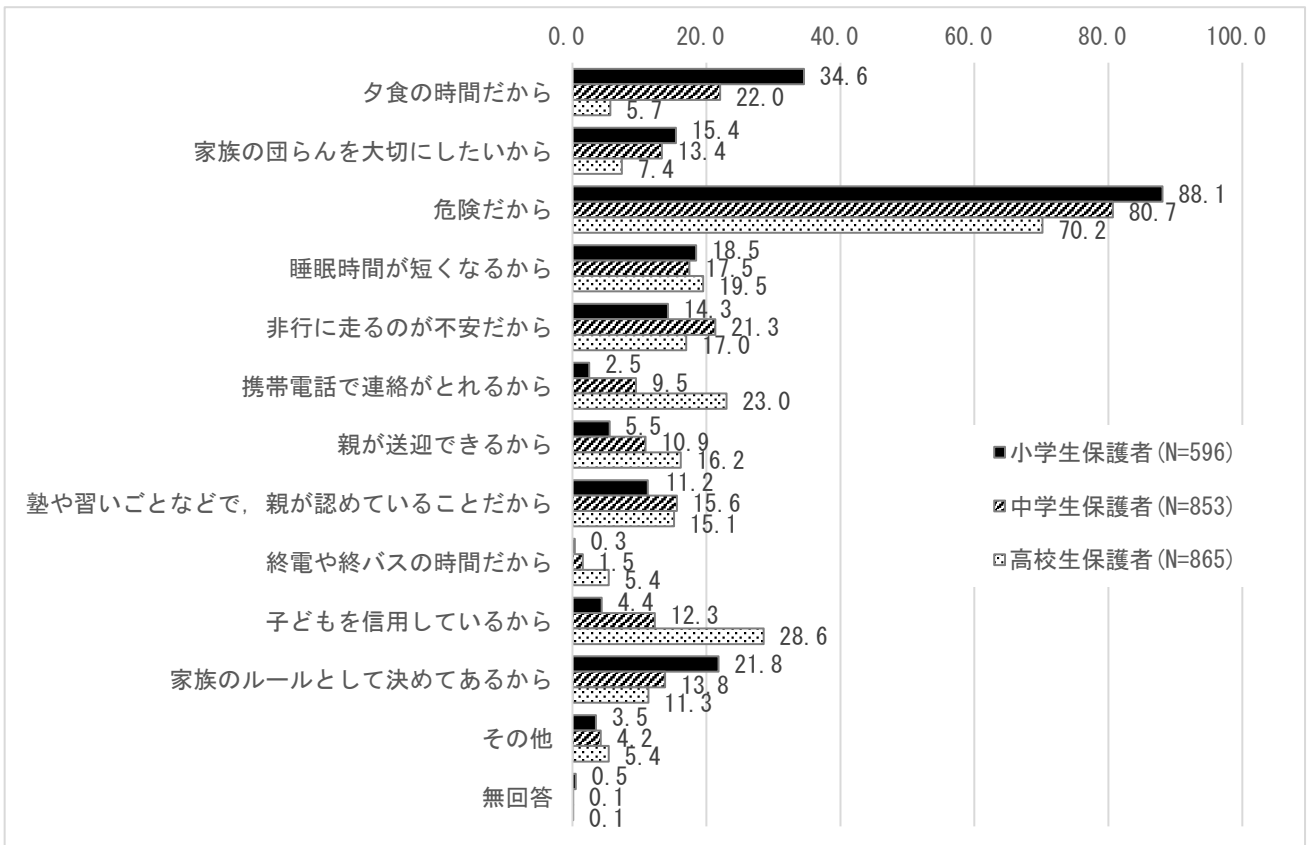
【子どもの帰宅時間に対する意識】 [学校段階]

(%)



【その理由】 (複数回答)

(%)



帰宅時間は、学校段階の進行に従い、遅い時間まで認められている。小学生では「午後6時まで」が79.5%と最も高くなっており、中学生では「7時まで」、高校生では「10時まで」が最も高くなっている。

その理由については、「危険だから」の割合が全ての学校段階で最も高くなっており、

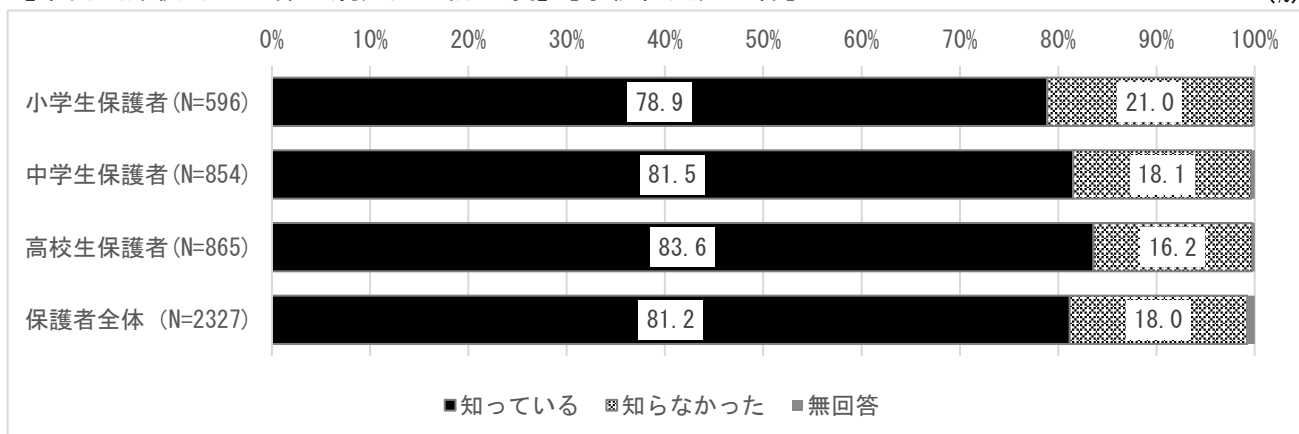
学校段階の進行に従い、「子どもを信用しているから」や「携帯電話で連絡がとれるから」の割合が上昇する一方で、「家族のルールとして決めてあるから」の割合が低下している。

その他の記述では、「部活動」とする内容が最も多く、「その都度理由を聞く」「アルバイト」のほか、「午後5時まで」という理由が複数あった。

[保護者 問15]

あなたは、茨城県青少年の健全育成等に関する条例により、保護者は深夜（午後11時から翌日の午前4時）に青少年を外出させないように努めることや、映画館やカラオケボックス等は深夜に青少年を入場させてはならないことを知っていますか。

【条例（深夜外出に係る規定）の認知度】 [学校種別，全体] (%)



条例を認知している割合は保護者全体で81.2%となっている。学校段階の進行に従い、わずかに上昇しているが、高校生保護者は、「知らなかった」の割合が16.2%となっている。

参考：「何時でもいい」と回答した保護者の傾向

子どもの帰宅時間について「何時でもいい」と回答した保護者は43人であった。（小学生保護者2人，中学生保護者9人，高校生保護者32人）

理由では「子どもを信用しているから」が最も多く21人、「携帯電話で連絡が取れるから」12人、「その他」12人となっている。その他の記述では、「その都度の理由により決める」とするものが8人であった。

【指標 [「条例の深夜外出についての規定」を知っている小中高校生の保護者の割合]について】

「条例の深夜外出についての規定」を知っている小中高校生の保護者の割合

基準値 (H26)	目標値 (H32)	実績値 (R1)
75.2%	92.0%	81.2%

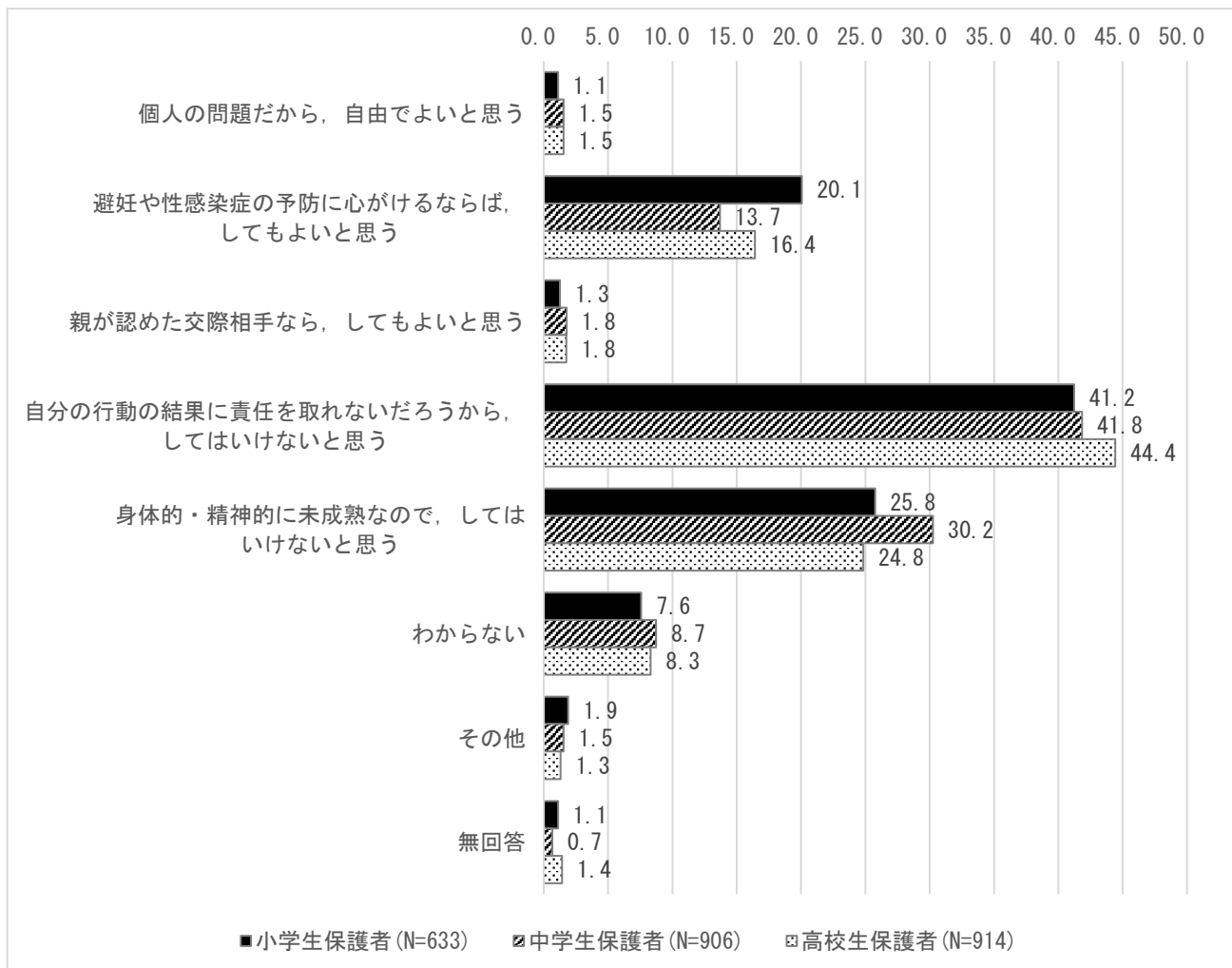
IV-2 その他の行動 ＜性行為について＞

[保護者 問16]

あなたは、18歳未満の青少年が性的な関係をもつことについて、どう思いますか。

【青少年の性行為について】[学校段階]

(%)

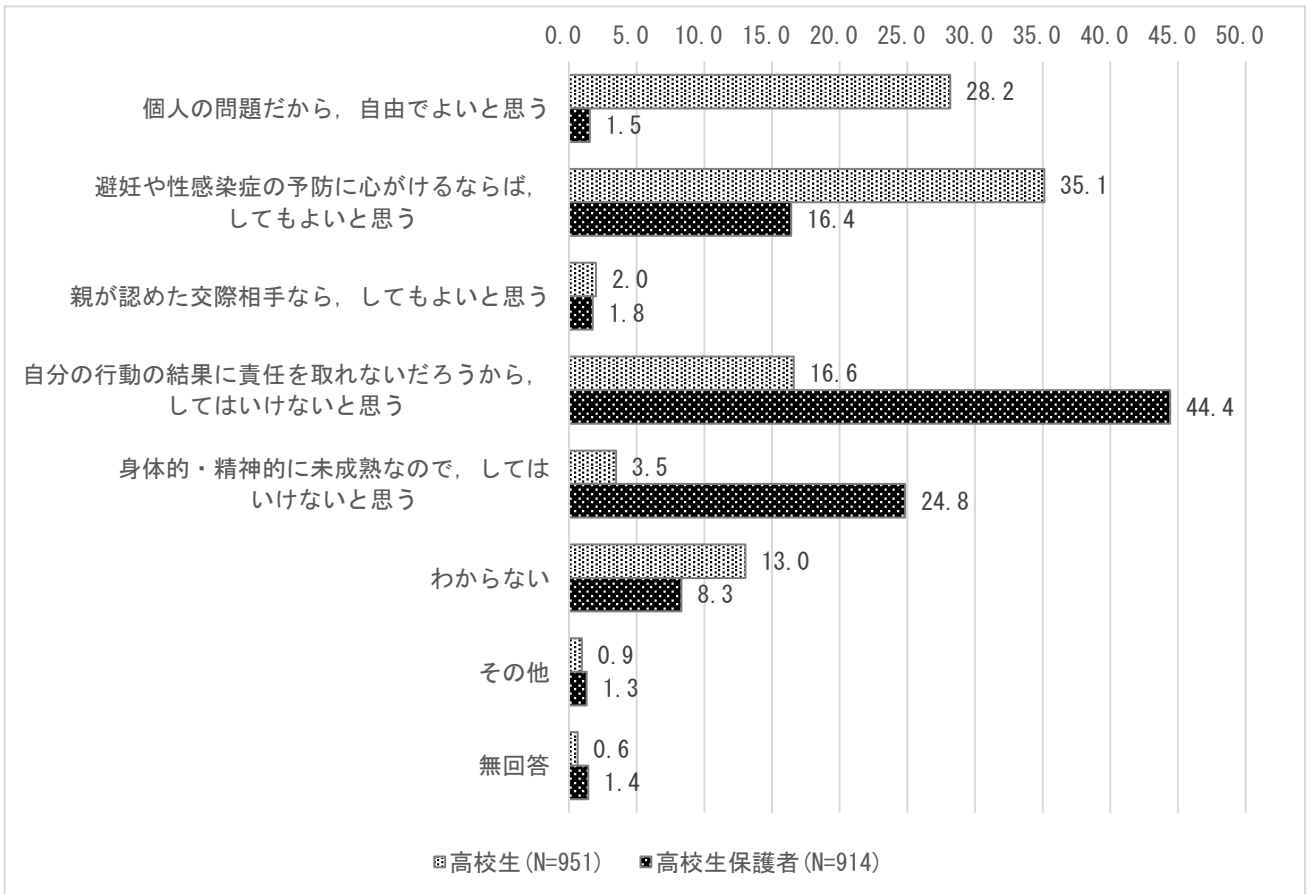


全ての学校段階で「自分の行動の結果に責任を取れないだろうから、してはいけないと思う」の割合が最も高くなっており、次いで「身体的・精神的に未成熟なので、してはいけないと思う」、「避妊や性感染症の予防に心がけるならば、してもよいと思う」となっている。

その他の記述では、「して欲しくない」、「きちんと性教育を行う必要がある」、「1つでなく複数の理由」の順で複数の意見があった。

参考：高校生と高校生保護者の性行為に対する意識の比較

(%)



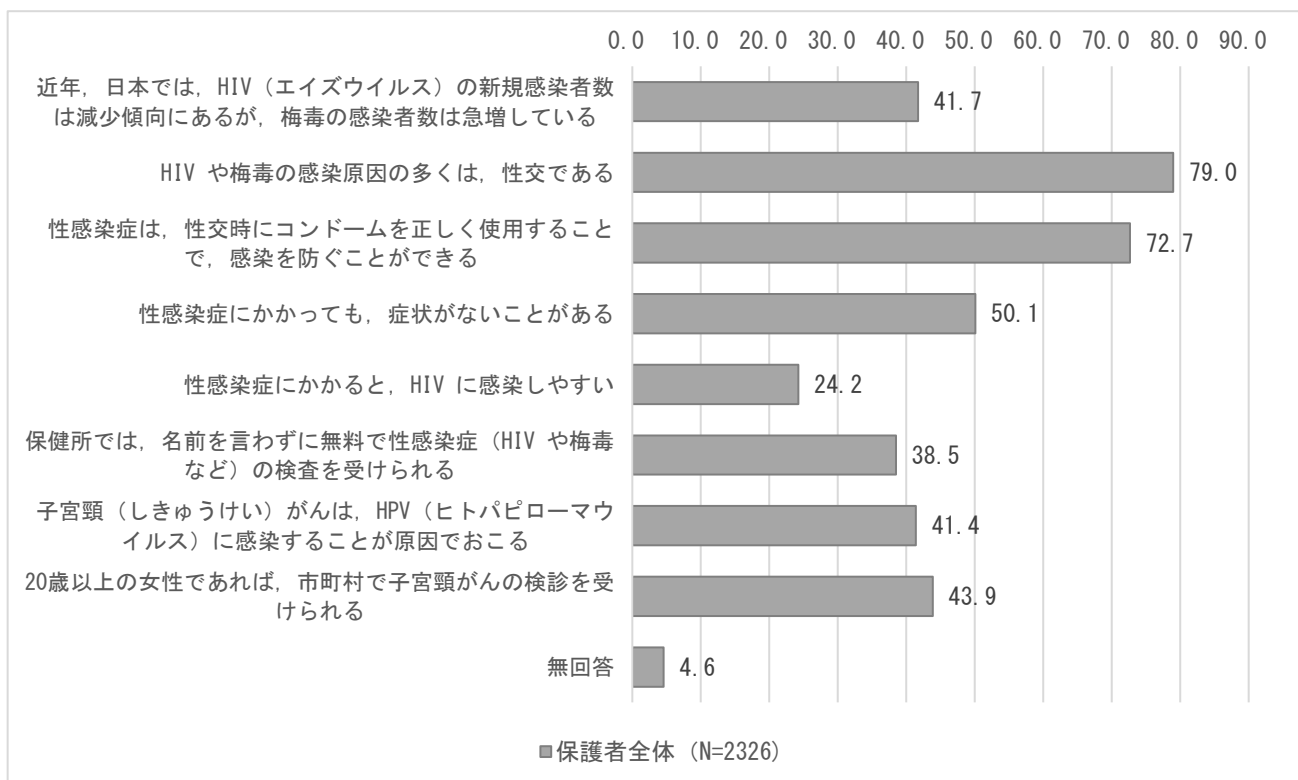
性行為について、高校生と高校生保護者の意見を比較すると、高校生は「個人の問題だから、自由でよいと思う」及び「避妊や性感染症の予防に心がけるならば、してもよいと思う」の割合が高く、肯定的に捉えていることに対し、高校生保護者では「自分の行動の結果に責任を取れないだろうから、してはいけないと思う」及び「身体的・精神的に未成熟なので、してはいけないと思う」の割合が高くなっており、否定的に捉えている。

[保護者 問17]

あなたが、次の中で、知っているものはどれですか。（複数回答）

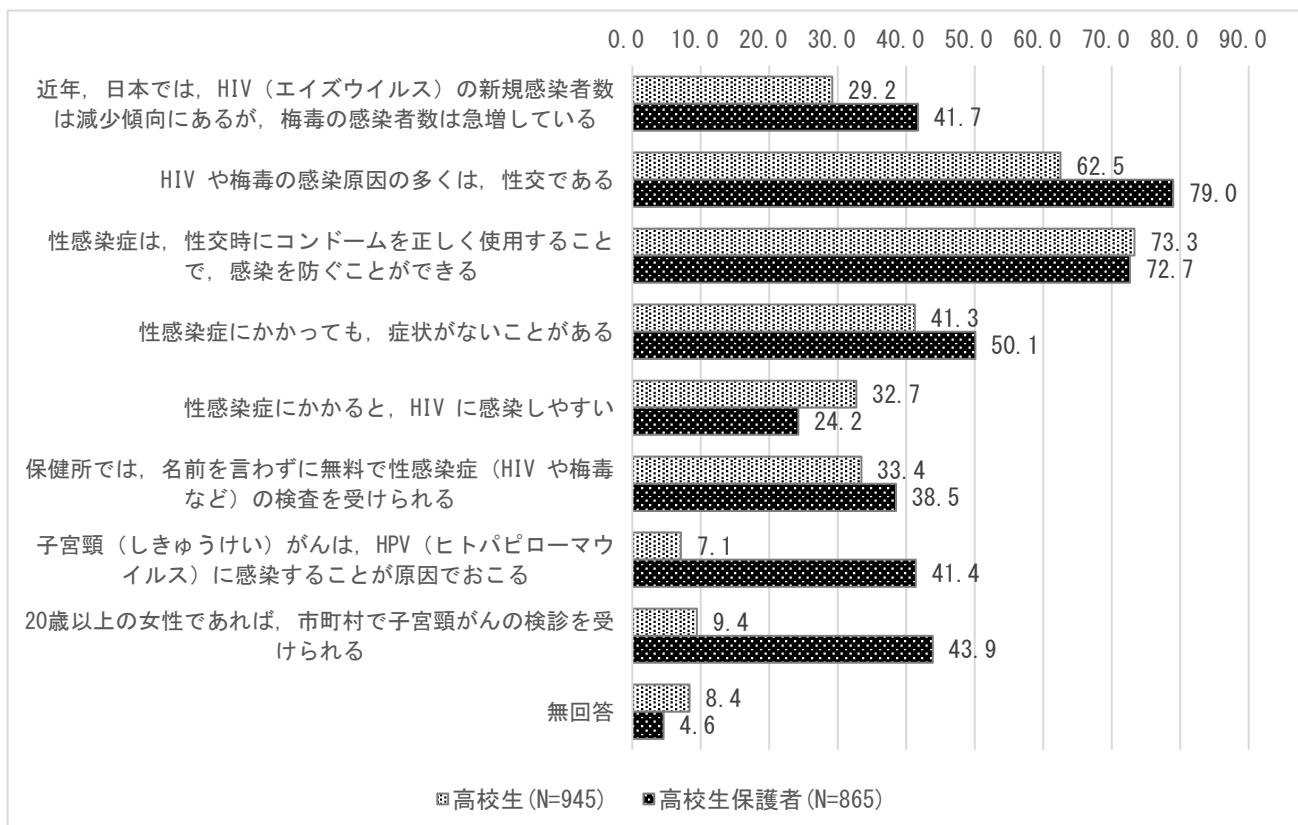
【性に関する知識】 [保護者全体]（複数回答）

(%)



参考：高校生とその保護者の性行為についての知識（複数回答）

(%)



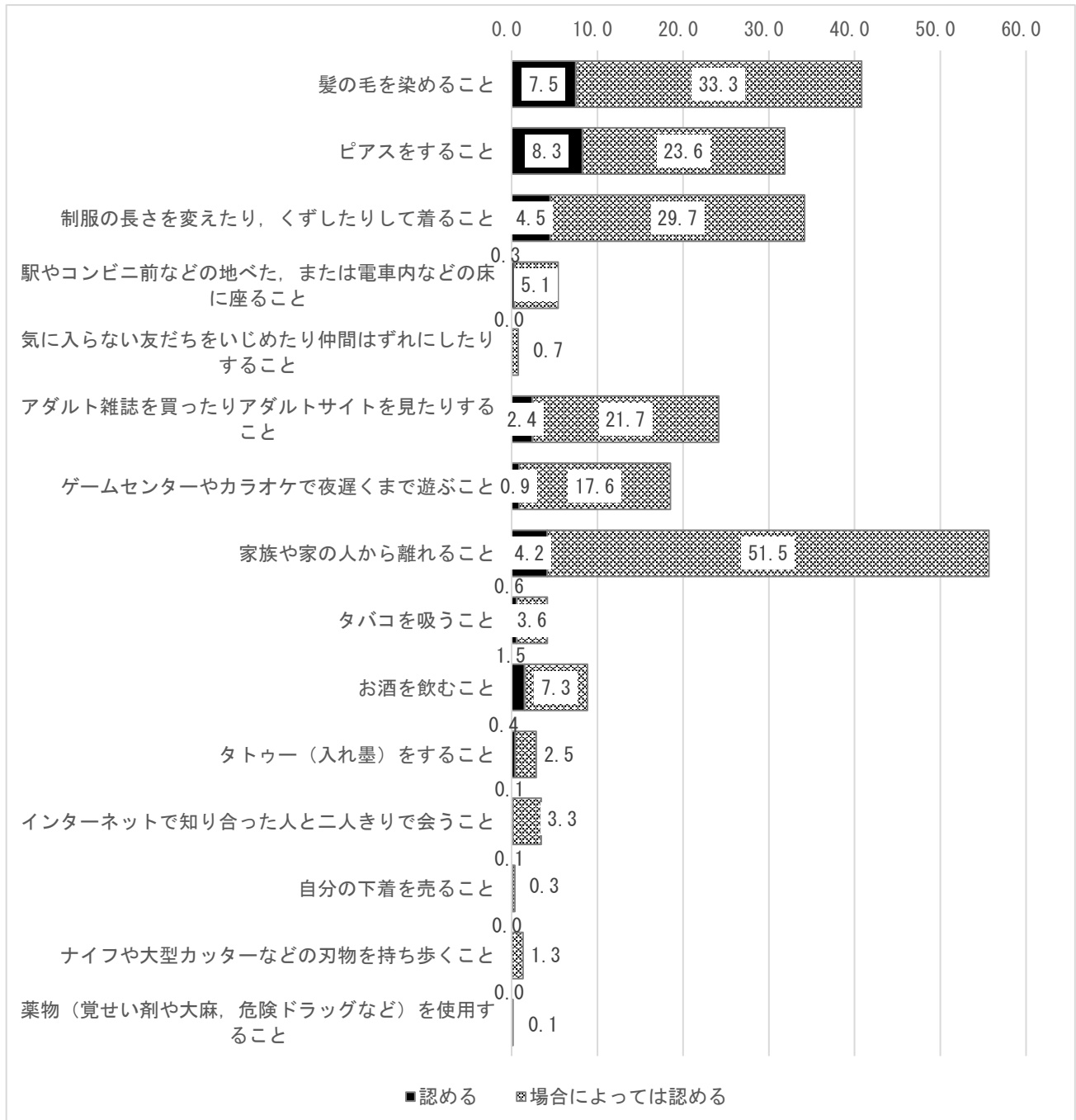
<様々な行為について>

[保護者 問18]

あなたはお子さんが次のような行為をすることについて、どう思いますか。

【子どもの行動についての考え①】（保護者全体 N=2,326）

(%)

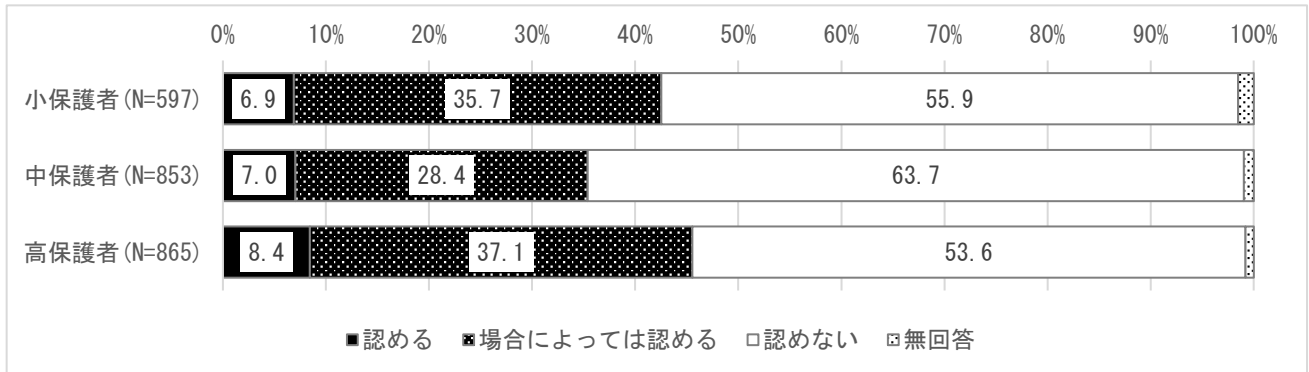


各行動について、「認める」「場合によっては認める」を含めた肯定的な考えを持つ割合は、「家族や家の人から離れること」が最も高く、次いで「髪の毛を染めること」、「制服の長さを変えたり、くずしたりして着ること」、「ピアスをすること」となっている。

【子どもの行動についての考え②】 [学校段階・項目は抜粋]

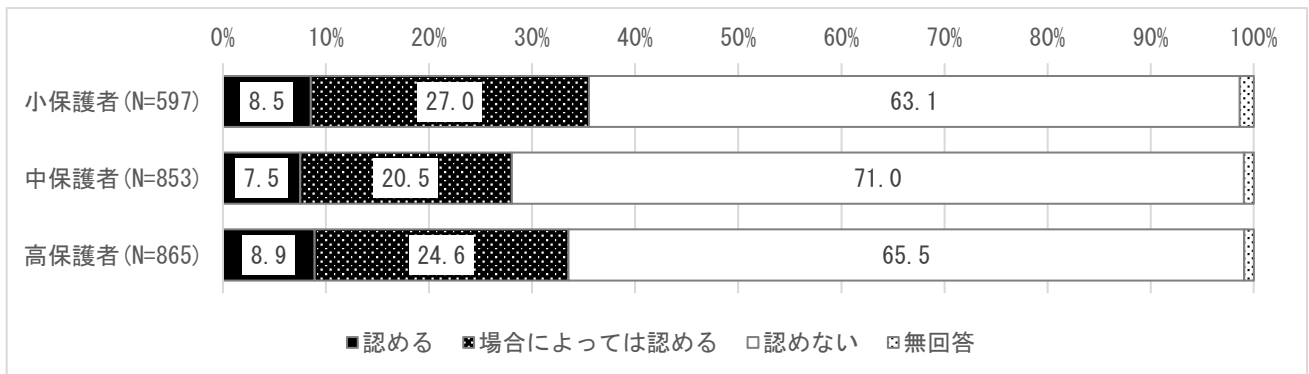
(1) 髪の毛を染めること

(%)



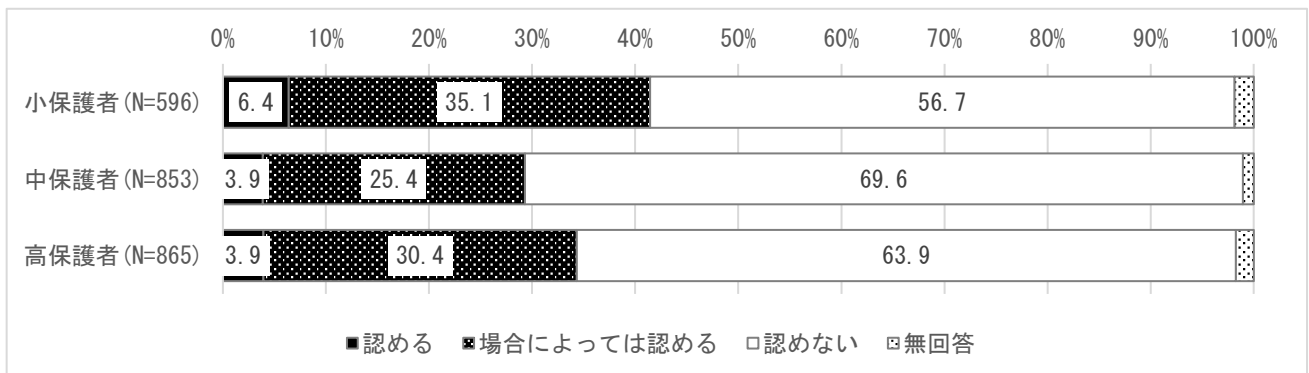
(2) ピアスをする

(%)



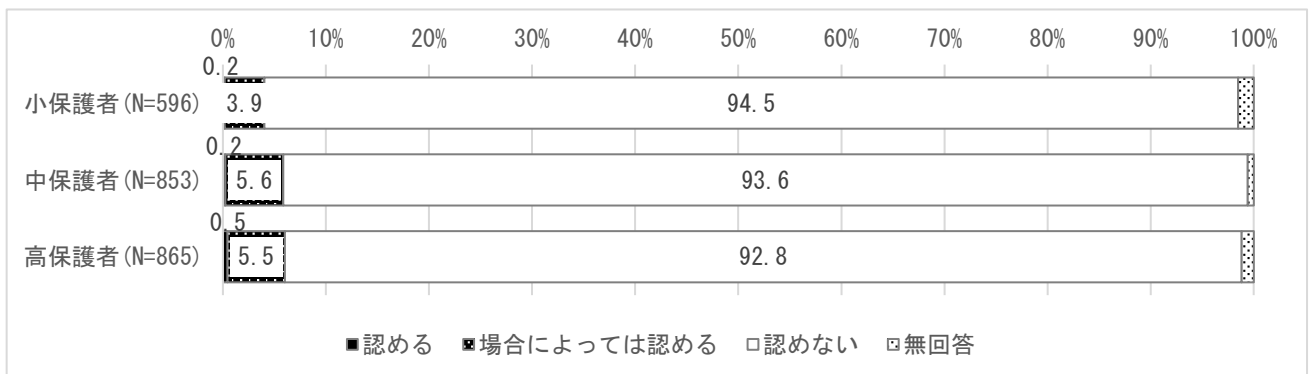
(3) 制服の長さを変えたり、くずしたりして着ること

(%)



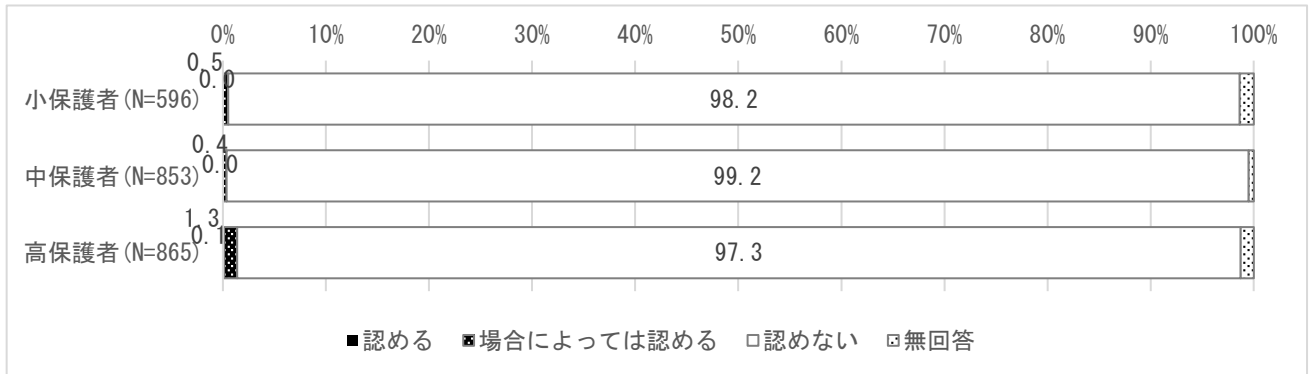
(4) 駅やコンビニ前などの地べた、または電車内などの床に座ること

(%)



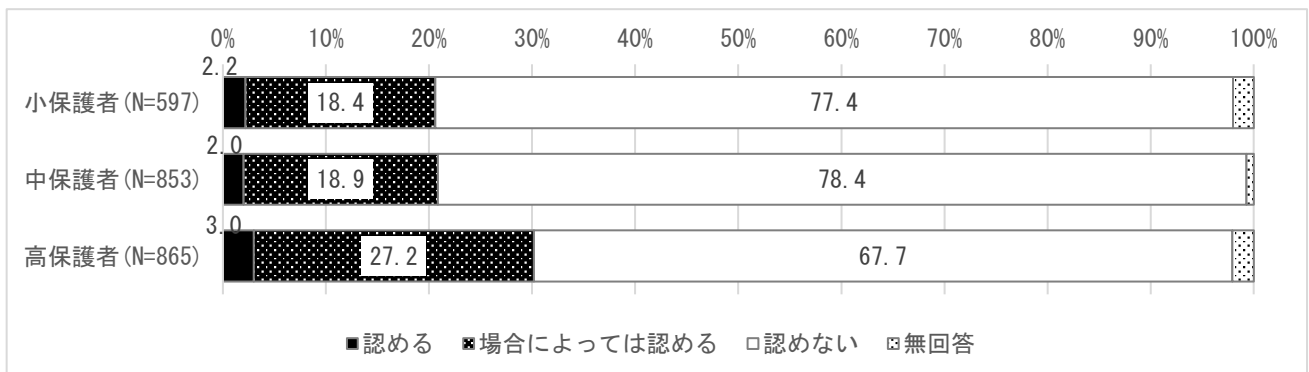
(5) 気に入らない友だちをいじめたり仲間はずれにしたりすること

(%)



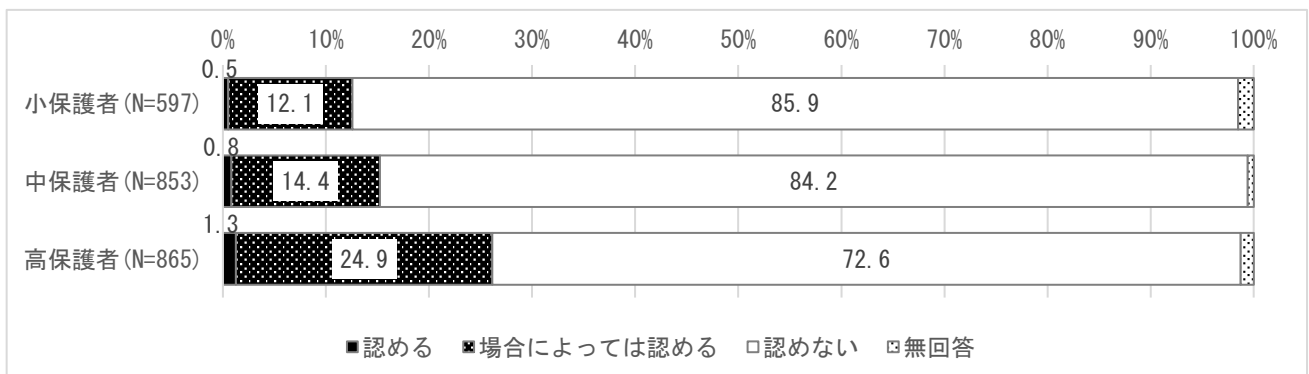
(6) アダルト雑誌を買ったりアダルトサイトを見たりすること

(%)



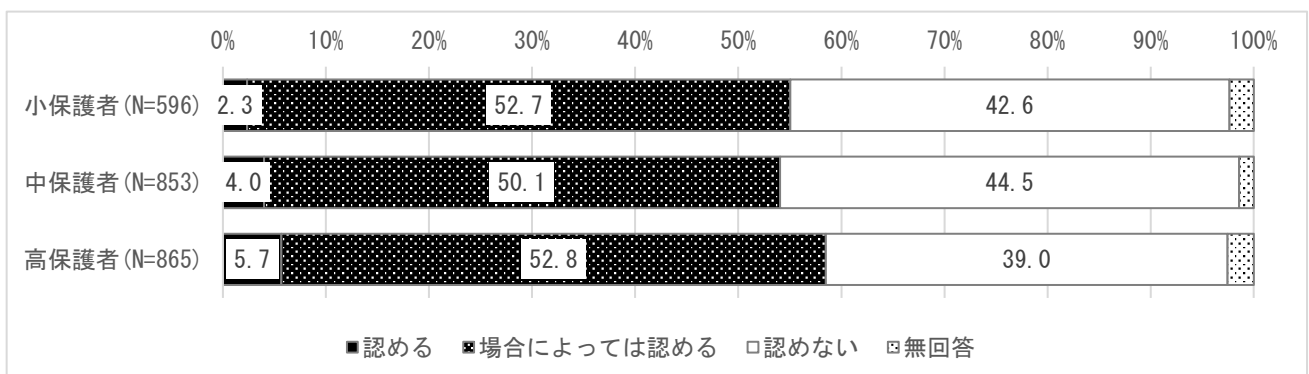
(7) ゲームセンターやカラオケで夜遅くまで遊ぶこと

(%)



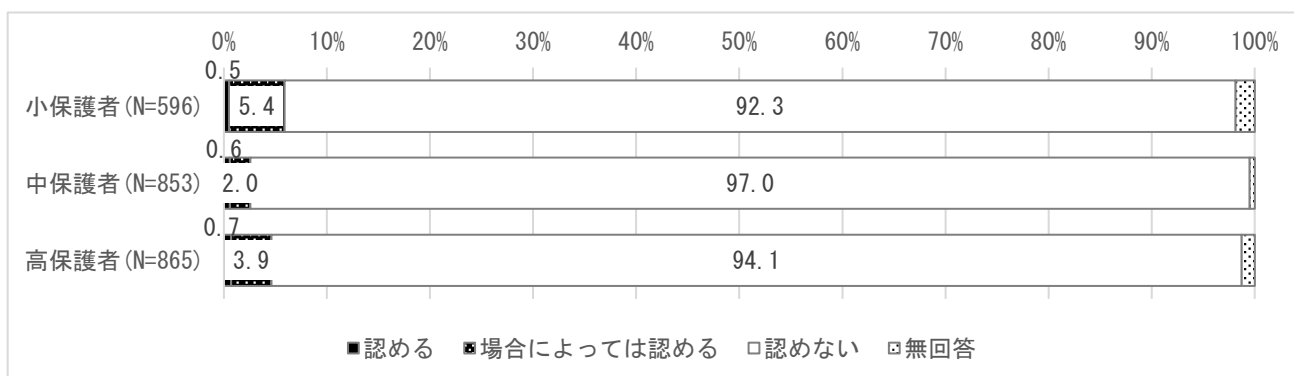
(8) 家族や家の人から離れること

(%)



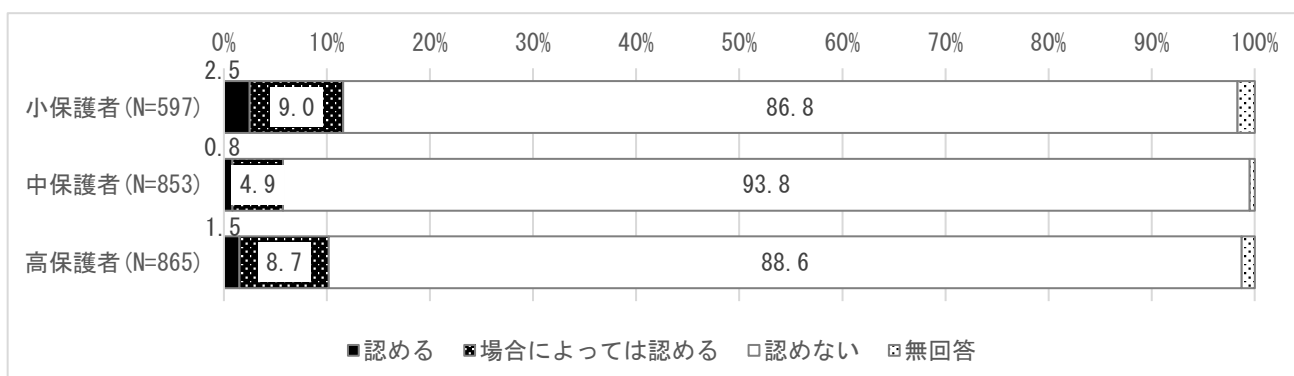
(9) タバコを吸うこと

(%)



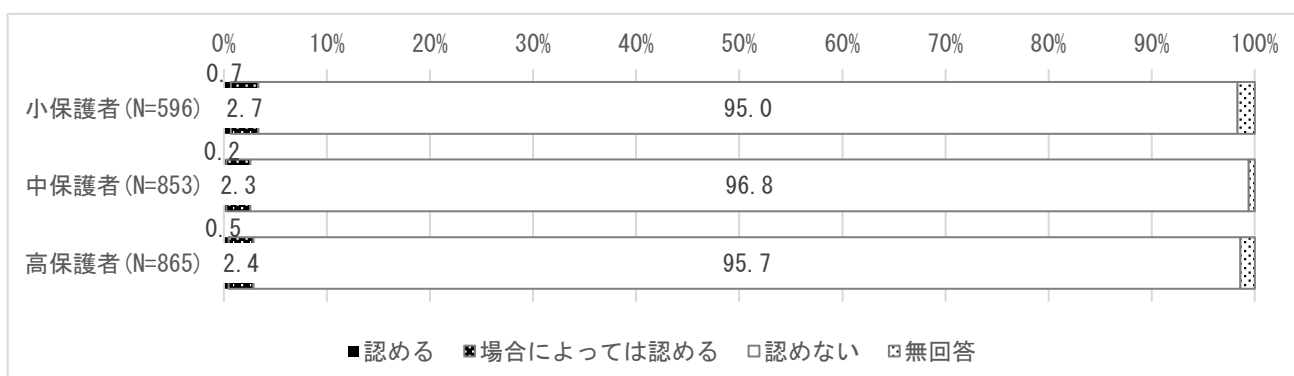
(10) お酒を飲むこと

(%)



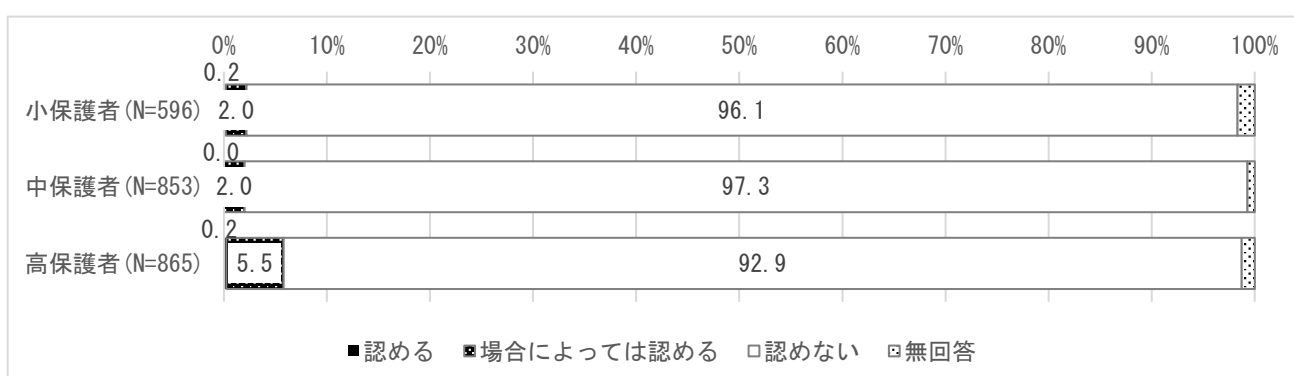
(11) タトゥー（入れ墨）をすること

(%)



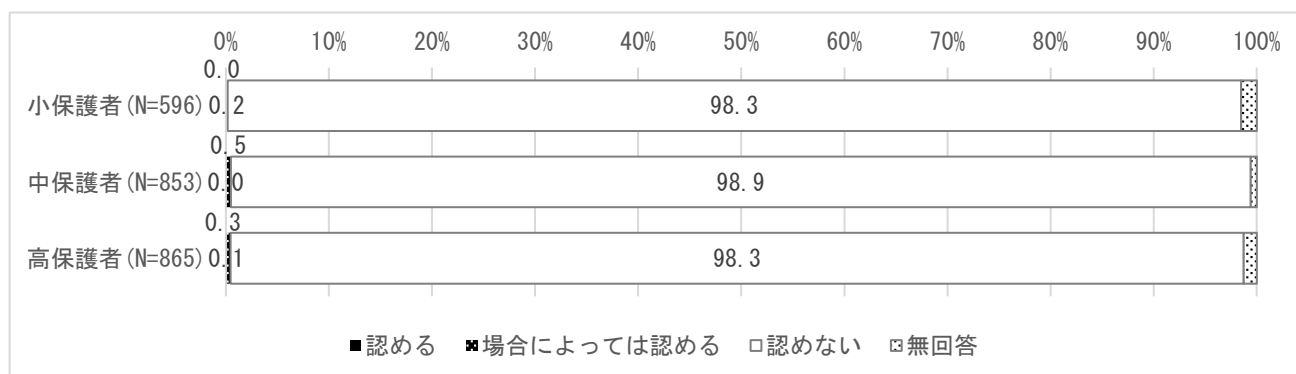
(12) インターネットで知り合った人と二人きりで会うこと

(%)



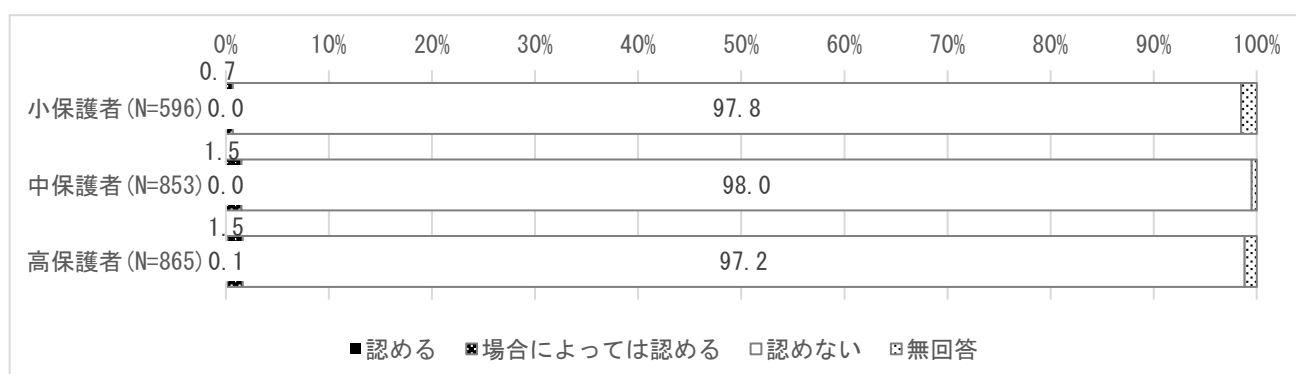
(13) 自分の下着を売ること

(%)



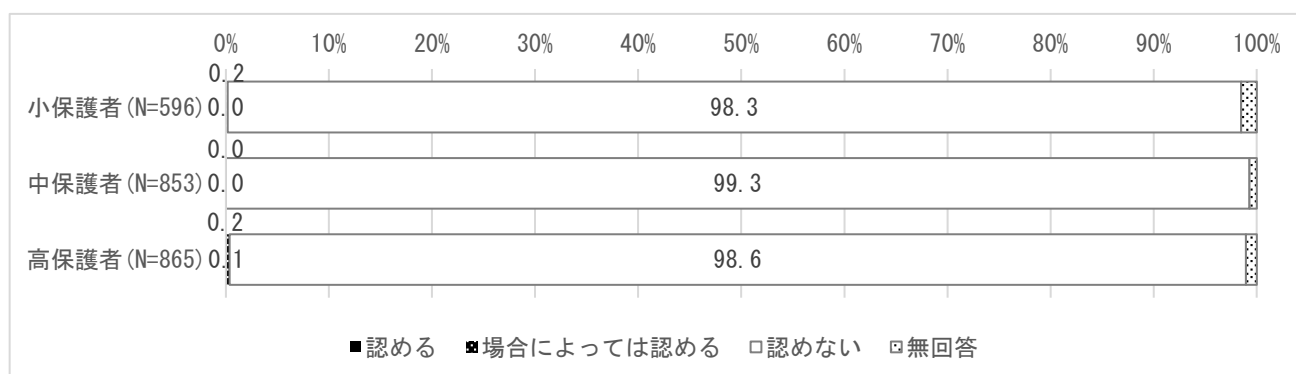
(14) ナイフや大型カッターなどの刃物を持ち歩くこと

(%)



(15) 薬物（覚せい剤や大麻、危険ドラッグなど）を使用すること

(%)



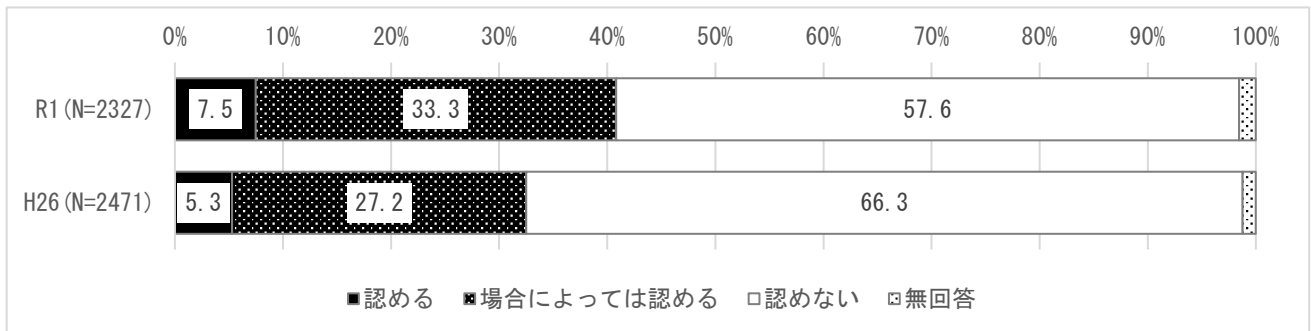
子どもの行動について学校段階で比較すると、「髪の毛を染めること」「ピアスをすること」「制服の長さを変えたり、くずしたりして着ること」は、中学生保護者の「認めない」割合が高くなっている。

ほか、「アダルト雑誌を買ったりアダルトサイトを見たりすること」、「ゲームセンターやカラオケで夜遅くまで遊ぶこと」、「家族や家の人から離れること」の割合は、学校段階の進行に従い、「認める」割合が上昇している。

【子どもの行動についての考え③】 [平成 22 年度調査との比較・項目は抜粋]

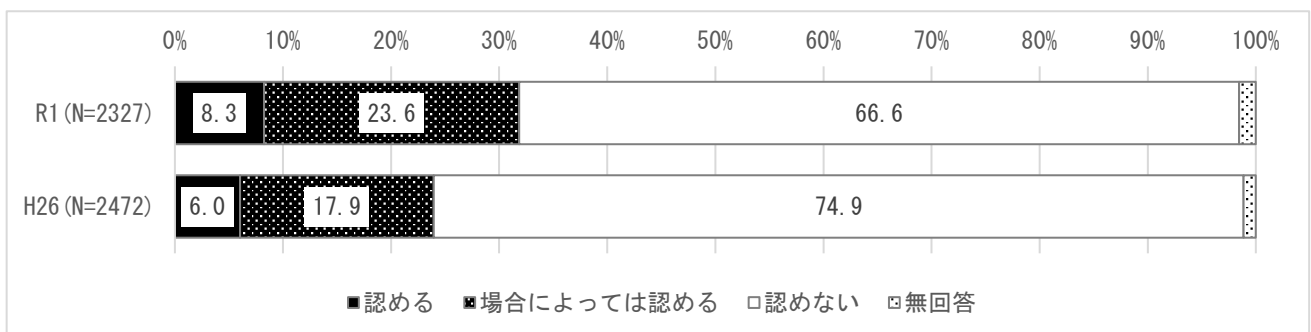
(1) 髪の毛を染めること

(%)



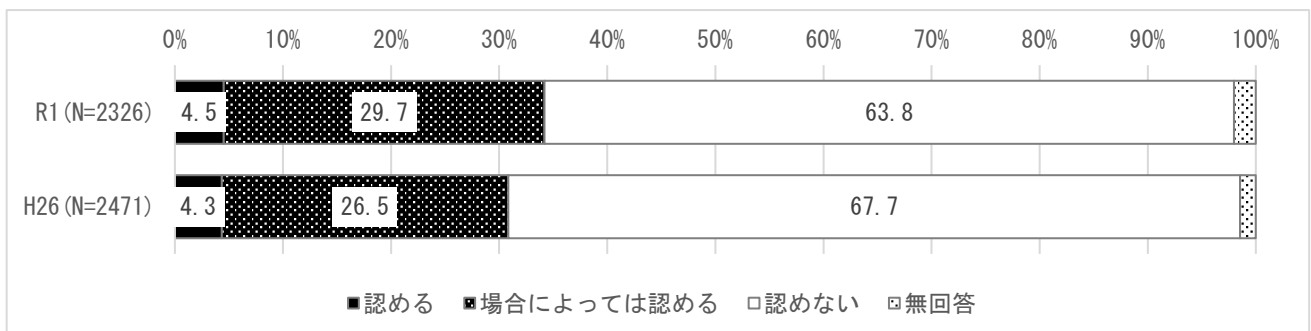
(2) ピアスをすること

(%)



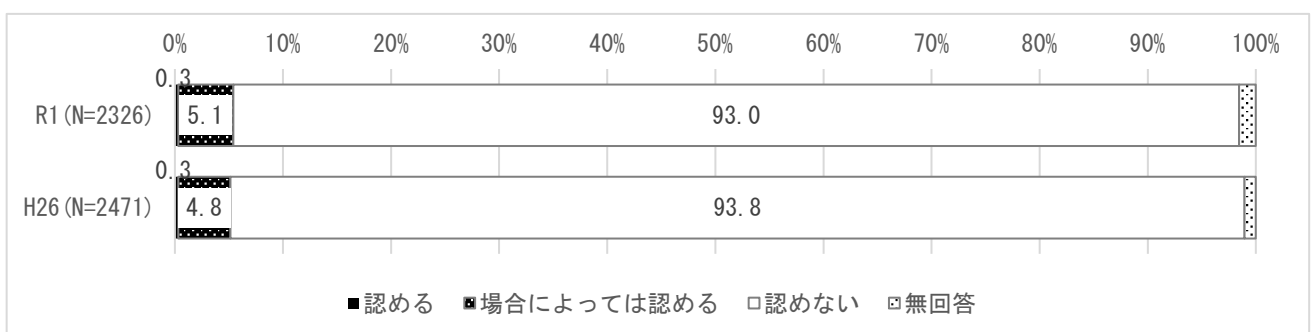
(3) 制服の長さを変えたり、くずしたりして着ること

(%)



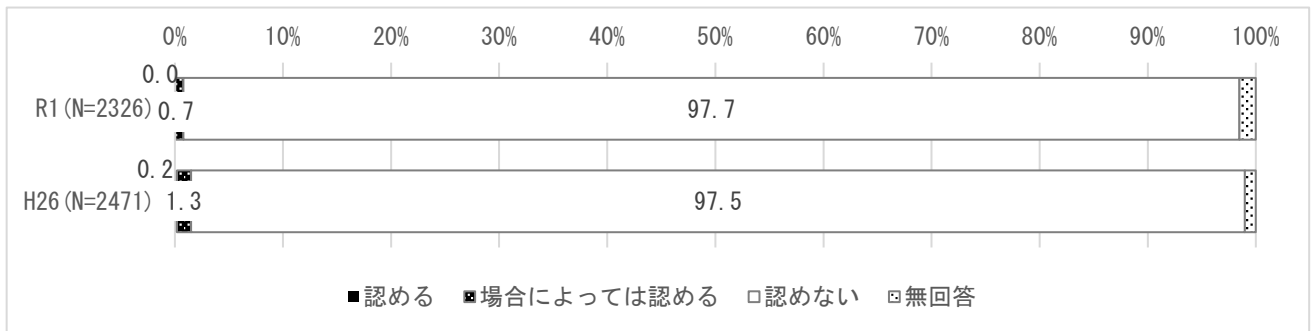
(4) 駅やコンビニ前などの地べた、または電車内などの床に座ること

(%)



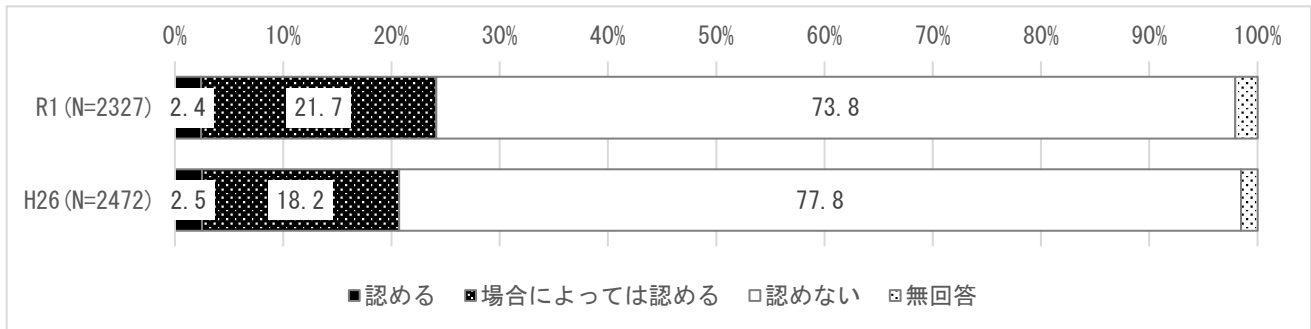
(5) 気に入らない友だちをいじめたり仲間はずれにしたりすること

(%)



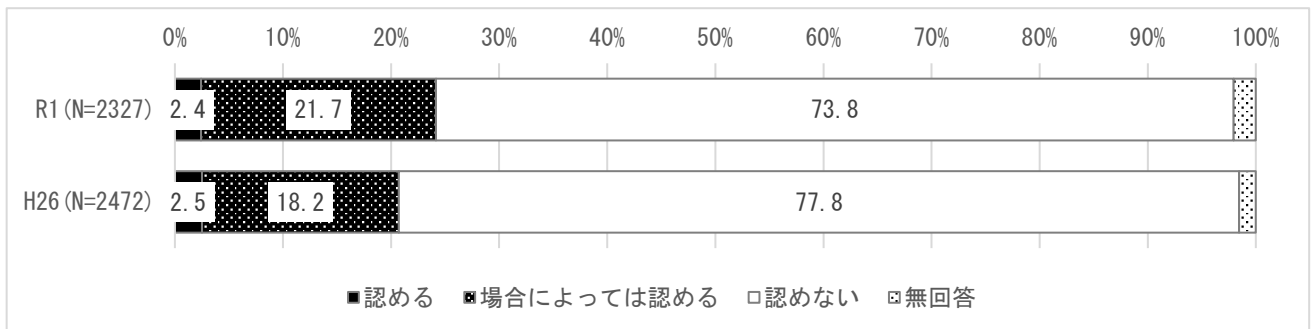
(6) アダルト雑誌を買ったりアダルトサイトを見たりすること

(%)



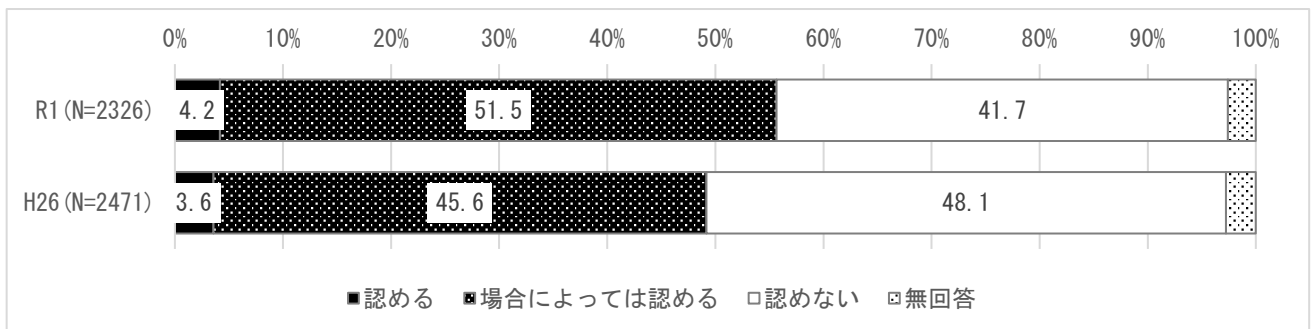
(7) ゲームセンターやカラオケで夜遅くまで遊ぶこと

(%)



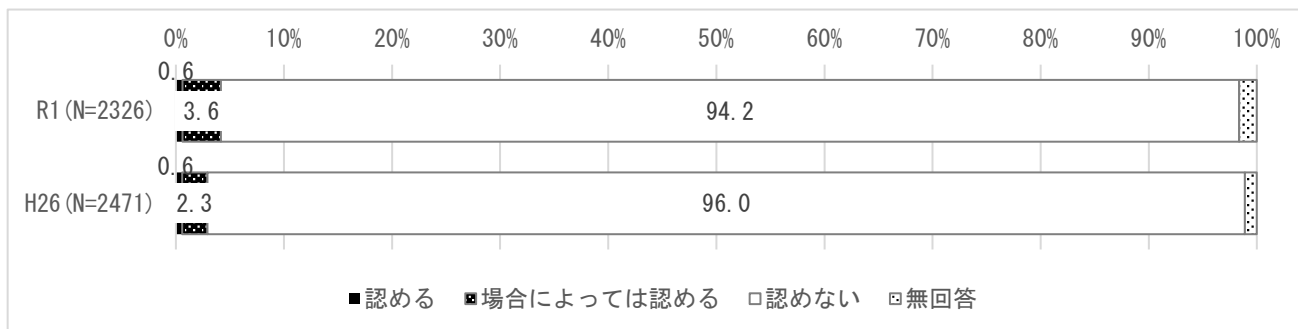
(8) 家族や家の人から離れること

(%)



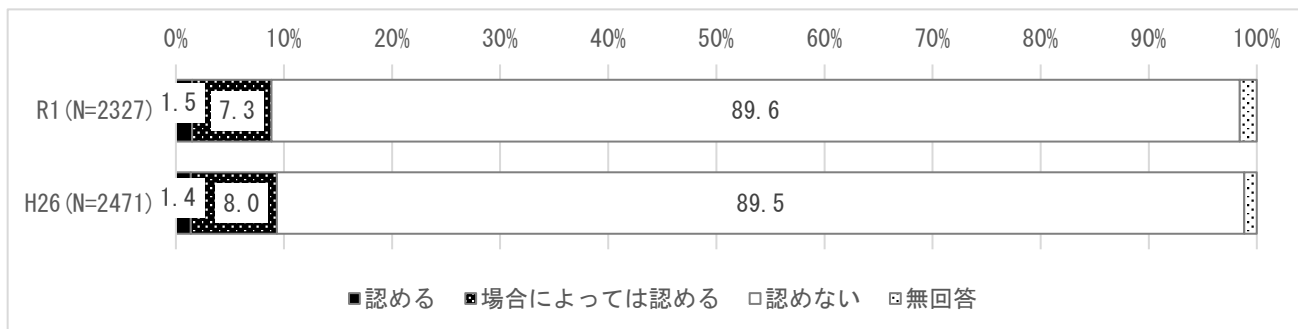
(9) タバコを吸うこと

(%)



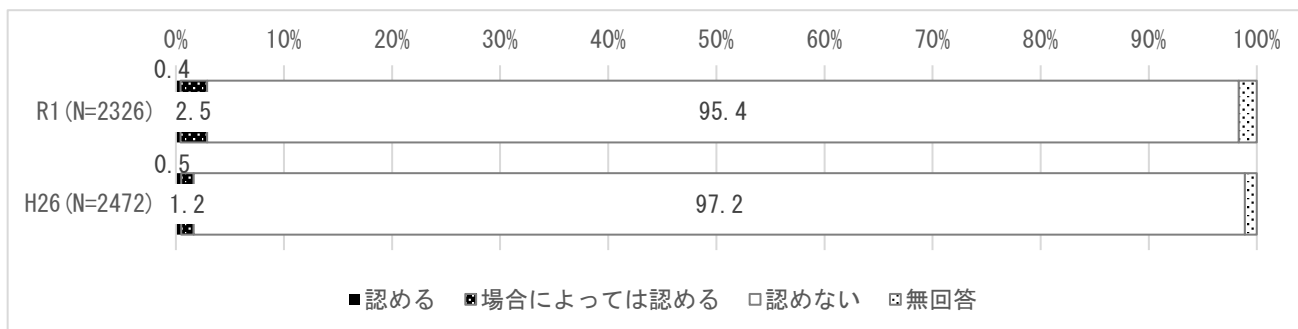
(10) お酒を飲むこと

(%)



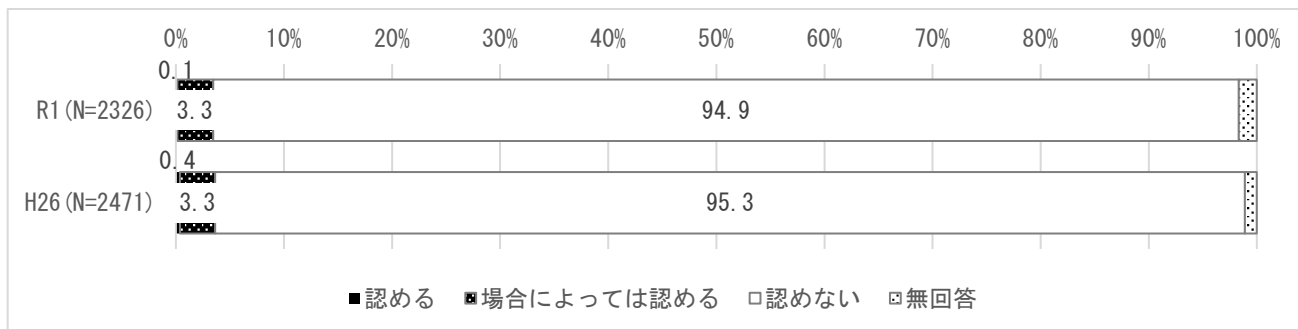
(11) タトゥー（入れ墨）をすること

(%)



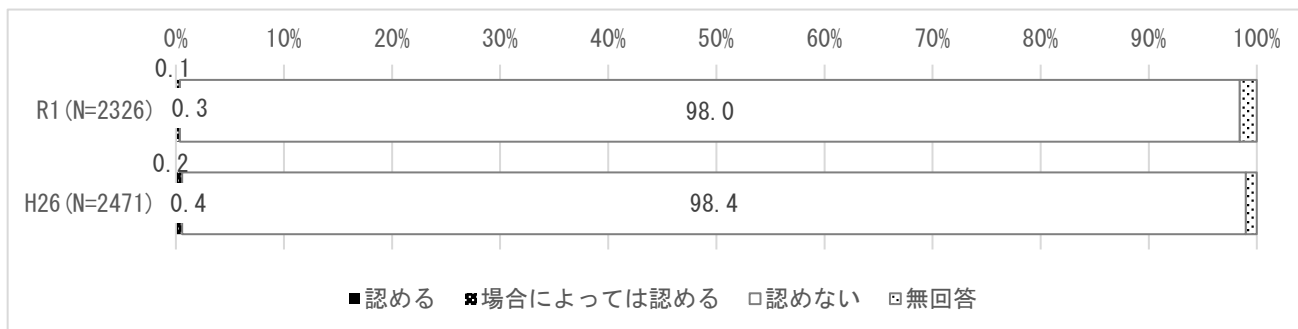
(12) インターネットで知り合った人と二人きりで会うこと

(%)



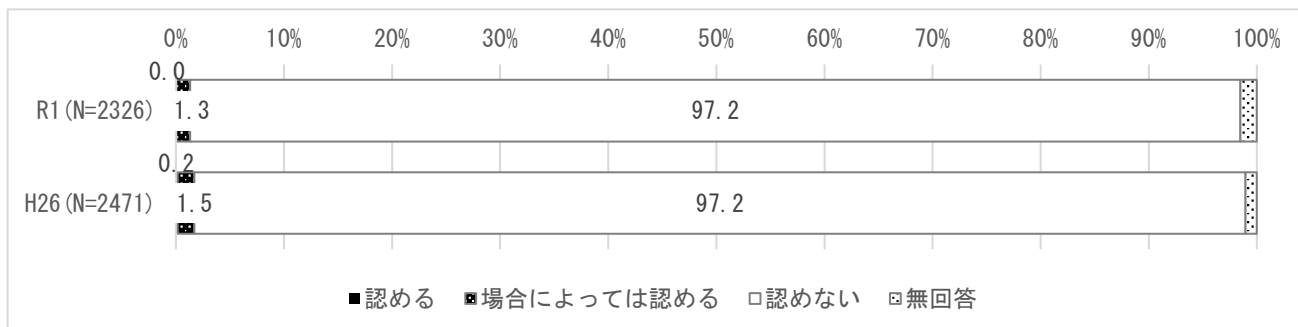
(13) 自分の下着を売ること

(%)



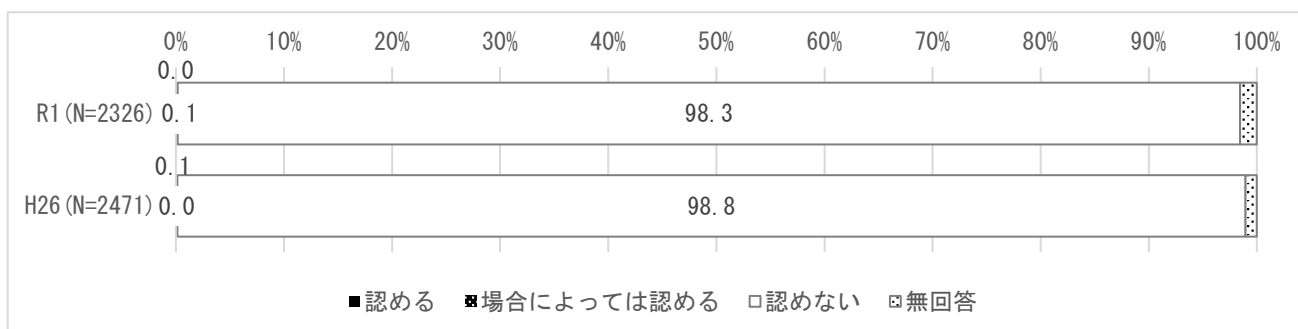
(14) ナイフや大型カッターなどの刃物を持ち歩くこと

(%)



(15) 薬物（覚せい剤や大麻，危険ドラッグなど）を使用すること

(%)



平成26年度調査と比較すると、複数の項目で肯定的な回答をする割合が上昇しているが、いじめや喫煙、飲酒など青少年にとって害の大きな内容については、否定的な意見が大勢を占めており大きな変化は見られない。